

平成30(2018)年度

学部

**東洋大学 自己点検・評価(学科フォーム)**

**部門名 : ライフデザイン学部 生活支援学科 生活支援学専攻**

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期			
1) 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部の目的を適切に設定しているか。	○学部、学科又は課程ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容 ○大学の理念・目的と学部・学科の目的の連関性	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	「●●学部規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を、学部規程に適切に定めている。	※1.当該項目については、平成23～25年度の自己点検・評価及び平成26年度の認証評価の結果から、大学全体及び各学部・学科の現状には大きな問題がないこと、第3期認証評価の評価項目を踏まえ、点検評価項目の見直しを図ったが、この項目における影響はないと判断し、毎年の自己点検・評価は実施しないこととする。(平成29年9月14日、自己点検・評価活動推進委員会承認)。					
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。								
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。								
		4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。								
2) 大学の理念・目的及び学部の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	○学部、学科又は課程ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示	5 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・履修要覧 ・ホームページ	各学部・学科において、「教育研究上の目的」を、「履修要覧」及びホームページにて公表している。						
		6 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。								
	7 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部の目的等の周知及び公表	受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。								
3) 大学の理念・目的、各学部における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定	8 大学の理念・目的を踏まえ、各学部における目的等を実現していくため、将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	・●●学部●●学科 中長期計画 ・中長期計画フィードバックコメント ・その他( )	平成29年度より全学的な方針の下、各学部の中長期計画を策定し、平成35年度までの到達目標とその計画を明確に定めている。 また、学長施策である「教育活動改革支援予算」により、理念目的の実現に向けた教育プログラムの企画と実行を進めている。				B	検証の仕組みや検証プロセスの明確化について引き続き専攻会議にて検討する。	
		9 各学部の中・長期計画その他の諸施策の計画は適切に実行されているか。実行責任体制及び検証プロセスを明確にし、適切に機能しているか。また、理念・目的等の実現に繋がっているか。	・各コース会議議事録 ・専攻会議議事録 ・ライブデザイン学部教授会資料 ・生活支援学専攻中長期計画	国家資格のカリキュラム変更が近いこともあり、各コース会議にて検討し、専攻会議において集約し、中長期な視点での専攻のあり方について検討している。また、専任教員の採用にあたって中長期計画を確認したうえで検討している。移転の方向性が示された赤羽台への新学部構想についても、時間を割いて検討を続けている。 他方、中長期計画で求められる教育課程の質の保証に対応する組織的体制や役割等についての検討は十分ではない。						
4) 大学・学部等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか	○教育組織としての適切な検証体制の構築	10 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・専攻会議議事録 ・進路状況アンケート ・卒業生アンケート ・新入生アンケート ・オープンキャンパスや入試動向 ・外部評価結果	社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家資格取得に対応した教育とともに、広く社会問題を把握して解決に導く視点と能力を持った人材の育成を目指している。オープンキャンパスや入試動向より専攻のブランドイメージを確認しながら、学内での進路状況を把握するとともに、卒業生へのアンケート等で専攻の教育目的の妥当性の把握につとめている。また、高度専門職養成に対応した専門実習等の独自のカリキュラムや、国家資格取得支援のあり方については、各コース会議でとりまとめられ専攻会議において議論され、毎年、1月～2月までに次年度に反映できるよう取りまとめている。 今年度実施した外部評価でも理念・目的の適切性について客観的な評価を受けた。	A					
		11 理念・目的の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。	・「建学の精神」、「大学の理念」 ・人材養成に関する目的・学生に修得させるべき能力等の教育目標 ・東洋大学ホームページ ・専攻会議議事録 ・各年度の課程表・各年度の履修要覧 ・卒業生アンケート・新入生アンケート	・専攻会議において各種委員会及び各コース会議の報告がなされ、学科教育に関する課題の協議が行われている。また、実習施設・機関の指導者を交えた懇談会を開催し、実習報告会を2月に実施している。 ・現在は、国家資格のカリキュラム変更が予定される状況に鑑み、カリキュラム変更に対応した教育支援のあり方、専攻のブランドイメージの向上、新学部構想にともなう総合福祉教育のあり方について検討している。	A					

(4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表	12 教育目標を明示しているか。	・「●●学部規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を学部規程に適切に定めている。	※1と同様		
		13 ディプロマ・ポリシーを設定し、かつ公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「●●学部規程」 ・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、ディプロマ・ポリシーを定め、ホームページにて公表している。			
		14 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・専攻 ディプロマ・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	・生活支援学専攻では、教育目標に「生活支援に関する課題」へ対して「自ら考え、対処の方向を見出し、関係者と連携して、行動することができる能力を培う」ことを掲げており、ディプロマ・ポリシーにおいて「様々な生活問題への鋭敏な感受性と深い洞察力を有し、課題解決に向けた実践力を身につけている」を掲げており、両者は整合したものとなっている。	A		
2)授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	16 カリキュラム・ポリシーを設定し、かつ公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「●●学部規程」 ・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、カリキュラム・ポリシーを定め、ホームページにて公表している。	※1と同様		
		17 カリキュラム・ポリシーには、教育課程の体系性や教育内容、科目区分、授業形態等を明示し、学科のカリキュラムを編成するうえで重要な具体的な方針が示されているか。	・専攻 カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	・カリキュラム・ポリシーには、教育課程の体系と教育内容が明示され、基盤教育科目、ゼミナール、実習科目・フィールドワーク等の具体的な方針が示されている。			
	○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な関連性	18 カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・専攻 カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	・カリキュラム・ポリシーに対応して、科目区分「基盤教育科目」「学部共通科目」「学科専門科目」を用意し、演習科目あるいは学科基幹科目を必修としている。また、取得資格の養成に沿った科目を順次修得できるよう配置している。介護福祉士・精神保健福祉士・社会福祉士関連科目を系統的に配置しており、社会福祉の専門性を習得することを目指す教育目標や専門職としての社会貢献や幅広い教養と問題整理力、課題解決への実践力・行動力を有するディプロマ・ポリシーと整合している。	A		
3)教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	○各学部において適切に教育課程を編成するための措置  ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ(必修、選択等) ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定(<学士課程>初年次教育、高大接続への配慮、基盤教育と専門教育の適切な配置等)	19 教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・授業時間割表 ・ライフデザイン学部履修要覧 ・専攻教育課程表 ・専攻会議議事録	・基盤教育科目に加え、介護福祉士・精神保健福祉士・社会福祉士の国家試験受験に必要な指定科目を中心に、関連科目を系統的に配置する総合福祉教育というカリキュラム・ポリシーに沿って、主要な授業科目はすべて開講している。 ・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を適切に設定するとともに、シラバスの「関連科目・関連分野」の枠を用意し、実習科目については、履修に必要な条件等を記載している。 ・「基盤教育科目」と「専門科目」の位置づけと役割を、『履修要覧』において示すとともに、新入生ガイダンス等で学生に向けて説明している。 ・各授業科目の単位数及び時間数は、大学設置基準及び学則に則り適切に設定されている。	A		
		20 各授業科目の単位数及び時間数は、大学設置基準及び学則に則り適切に設定されているか。					
		21 授業科目の位置づけ(必修、選択等)に極端な偏りがなく、教育目標等を達成するうえで必要な授業科目がバランスよく編成されているか。					
	○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施	22 専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・東洋大学ホームページ ・学科カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・専攻教育課程表 ・該当科目シラバス ・専攻会議議事録	・1年次に演習ⅠAとⅠBを必修として配置し、「ⅠA」は初年次教育、「ⅠB」は専門教育への導入教育と位置づけて、演習による丁寧な授業を実施している。また、総合福祉教育の基盤となる地域への関心とローカルニーズの把握に努めるべく、北区栄町へのフィールドワークを実施している。 ・専門科目を2年次から配置し、援助技術の演習科目、実習指導科目と平行して受講する体制となっており、3年時の現場実習と4年時の専門実習へと繋がるカリキュラムとなっており、いずれもカリキュラム・ポリシーに合致している。	A		
		23 基盤教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。卒業、履修の要件は適切にバランスよく設定されているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・専攻会議議事録 ・社会福祉士国家試験対策講座	・基盤教育科目に加え、介護福祉士・精神保健福祉士・社会福祉士の国家試験受験に必要な指定科目を中心に、関連科目を系統的に配置するというカリキュラム・ポリシーに沿って、主要な授業科目はすべて開講している。 ・社会的及び職業的自立を図るため、現場実践で活躍するソーシャルワーカーや当事者による講演会を多く行う他、こども食堂の運営補助や北区栄町親和会協同での行事開催も行っている。 ・社会福祉士国家試験資格を取得希望者への学習室を用意し受験対策講座や自主勉強会の開催や特別講義等も行い合格率を上げている。	A		
		24 カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。		・社会福祉士等の国家資格取得を支える総合福祉カリキュラムのもと、相談援助の知識・能力の取得を目指すべく演習を充実させている。演習クラス、各コース、専攻全体での情報共有を連携を機能させている。 ・学生個々の進路指導を早い段階から把握し、国家試験対策、公務員試験対策への特別講義や個人指導等を行っている ・実習施設の関連業界企業等を招いて開催する福祉業界説明会を実施することで、早い段階から卒業後のキャリアを意識させている。	A		
		25 学科の人材養成の目的に即した、社会的及び職業的自立を図るために、キャリア教育等必要な教育を正課内に適切に配置しているか。また必要な正課外教育が適切に施されているか。					
26 教育目標に照らした諸資格の取得、その他必要な知識・技能を測る試験の受験に係る指導や支援環境が整っているか。							
27 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の育成に向けて、学科内の学生への指導体制は適切であるか。また、学内の関係組織等の連携体制は明確に教職員で共有され、機能しているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・専攻会議議事録 ・進路指導票 ・福祉業界説明会						

(4) 教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
4) 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	○各学部において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置 ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置(1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等) ・シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等) ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法 <学士課程> ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数 ・適切な履修指導の実施	28 単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	・履修要覧	全学部・学科において、1年間の履修登録科目の上限を、50単位未満に設定し、学部規程に規定している(卒業要件外の科目を除く)。	※1と同様		
		29 シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバスの作成依頼 ・シラバスの点検資料、点検結果報告書 ・「授業評価アンケート」資料	シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部による全科目のシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。			
		30 授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。					
		31 学生の主体的参加を促すための配慮(学生教、施設・設備の利用など)を行っているか。	・授業評価アンケート結果 ・授業評価アンケート結果に対する所見 ・専攻会議議事録	・授業評価アンケートは実施しているものの、評価項目が演習科目に合致しない場合もあり、改善の余地がある。 ・総合福祉カリキュラムの柱となる演習科目を実施する教室の確保が難しい。講義科目においても、教室の稼働状況によって時間割を編成する等、学生の主体的学びが設備に左右されている。	B	教室の確保が難しい状況については、引き続き時間割の調整により解決していきたい。	
		32 履修指導の機会、オフィスアワーなど、学生が学習に係る相談を受けやすい環境が整っているか。また、その指導体制は適切であるか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・専攻会議議事録	・各年度、個別履修相談を行うと同時に、各資格取得コースの演習において、履修状況及び実習に係る面談を実施している。 ・教員各自がオフィスアワーを定め、学生との相談を行うとともに、オフィスアワー以外でも常に学生が相談できる関係性の構築に心がけている。 ・実習指導室ではでの助教による指導を丁寧に行っている。	A		
		33 学生の学習を活性化し、教育の質的転換を実現するために、学科が主体的かつ組織的に取り組んでいるか。	・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部履修要覧 ・専攻会議議事録	・生活支援学専攻では、座学に偏ることのないよう、1年次の北区栄町へのフィールドワーク、ハンセン病療養所視察、福祉施設見学等、多くの実践に触れる機会を持つと同時に、現場専門職による講義、認知症の家族等の当事者の講話等、座学を補完する実践的な学びの機会を多く用意している。 ・生活支援学演習(ゼミ)では、より実践的な学びを得られる工夫を行っており、それらの取組は教員間で共有され活用するようにしている。 ・相談援助に係る演習科目を中心に、学生の学習が十分に活性化されているか、学習到達目標に照らした教育方法となっているかを、非常勤講師を交えて検討会議を月1回の頻度で開催している。。	A		
34 カリキュラム・ポリシーに従い、各科目の学習到達目標に照らした教育方法が適切に用いられているか。							
5) 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与	35 シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。		シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部によるシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。	※1と同様		
		36 海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・東洋大学学則	学則において60単位まで認定できることを定めており、各学部教授会で審議の上で単位認定を行っている。			
		37 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置を取っているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	・成績評価は東洋大学の基準に則り、要覧及びシラバスにある方法で客観的に行っている。また、成績評価基準をシラバスに明記して厳格性を担保している。 ・客観性を担保するため、成績付与についてはミニテスト、リアクションペーパーの活用を推奨しており、また、ミニテストやリアクションペーパーのやり取りを活用した双方向の講義を心がけるよう、専攻会議において年度当初に周知している。	A		
		38 卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・履修要覧	卒業要件は、学部規程に規定し、履修要覧にて全学生に明示している。また、新入生には履修ガイダンスと併せて、履修指導を行っており、卒業要件については十分に説明している。	※1と同様		
		39 ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・専攻 ディプロマ・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ ・専攻会議議事録	・生活支援学専攻では、社会福祉のいずれかの分野での専門職としても、また他の分野においても社会問題に対峙できる幅広い教養として、教育目標に沿って設定された授業科目の履修・修得を卒業要件とすることがディプロマ・ポリシーに明示され、知識・理解、思考・判断、関心・意欲、態度、技能発・表現の5領域において習得すべき能力を明示している。 ・卒業認定に関しては、専攻会議で確認したうえで、教授会で判定している。	A		
40 学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。							

(4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
6) 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定 ○学習成果を把握及び評価するための方法の開発 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	41 学科として、各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測るための評価指標(評価方法)を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・授業評価アンケート結果 ・授業評価アンケート結果に対する所見 ・学生との意見交換議事録 ・新入生アンケート結果 ・卒業生アンケート結果	・毎学期毎に授業評価アンケートを実施して学生の学習効果の測定を行っている。また、授業でリアクションペーパーを使用して学生の理解度を測定する場合もある。各教員には授業評価アンケートの結果に対する改善方策の提出を求めている。 ・生活支援学専攻は、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の国家資格取得に係る実習教育を、実習施設との緊密な連携の下で実施している。実習の評価指標では、実習記録への指導者からのコメントや実習指導者からの評価表を活用している。また、実習施設との懇談会において事前・事後指導を含む実習教育のあり方についての意見交換を毎年行っている。 ・福祉系国家資格(社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士)の合格率を毎年検証し、専門科目の配置、履修モデル等の教育内容及び方法の改善について、各コース会議及び専攻会議にて検討している。	A		
		42 学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施し、かつ活用しているか。					
7) 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	43 カリキュラム(教育課程・教育方法)の適切性を検証するために、定期的に点検・評価を実施しているか。また、具体的に何に基づき(資料、情報などの根拠)点検・評価、改善を行っているか。	・授業評価アンケート結果 ・授業評価アンケート結果に対する所見 ・学生との意見交換議事録 ・新入生アンケート結果 ・卒業生アンケート結果	・入学時に、全入学生に、入学動機、学習目標および意欲等に関するアンケート調査を実施している。また、資格取得希望者への説明会を開催し、動機や進路希望の確認を行っている。 ・援助技術演習に係る全教員(非常勤講師を含む)が毎月、指導状況や指導内容、個別指導の必要な学生等の情報を共有するミーティングを開催し、教育内容の確認を行っており、次年度のシラバスへ反映させている。 ・卒業時に、全卒業生に、授業だけでなく学生生活全般についてのアンケート調査を実施している。	A		
		44 教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織・権限・手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。					
		45 授業内容・方法の工夫、改善に向けて、学内(高等教育推進センター)、学外のFDに係る研修会や機関などの取り組みを活用し、組織的かつ積極的に取り組んでいるか。					

(5)学生の受け入れ

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期		
1) 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	46 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・ホームページ	各学部、学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	B	※1と同様			
		47 アドミッション・ポリシーには、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示しているか。	・専攻会議議事録 ・東洋大学入試情報サイト ・オープンキャンパスでの説明資料 ・ライフデザイン学部教授会議事録	・生活支援学専攻では、アドミッション・ポリシーに、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協同性に分けて修得しておくべき知識の内容と水準が明示されているが、判定方法については示していない。				入学希望者に求める水準等の判定方法については、引き続き専攻内において検討を進めたい。	
		48 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・ホームページ	全学部・全学科において、大学ホームページにて公表している。				※1と同様	
2) 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学選抜制度の適切な設定 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学選抜の実施 ○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公正な入学選抜の実施	49 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・専攻会議議事録 ・入試ナビ ・東洋大学入試情報サイト ・入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	・ホームページにて、入試種別毎に、募集人員、選考方法等を公表している。 ・各方式とも、募集人員、選考方法を、「入試ナビ」および東洋大学入試サイトにて受験生に明示している。 ・入試方式は、社会事象を読み解くために必要となる基礎学力に焦点化して受験科目を設定している。 ・毎年度の入試動向を分析し、入試方式及び定員を専攻会議で検討している。つねに専攻のアドミッション・ポリシーに合う学生を入学させることができるよう入試方式や学生募集を検討を重ねている。	A	※1と同様			
		50 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。						・入学試験実施本部体制	学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制を構築して入学試験を適切に実施している。
		51 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。						学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制において、障がいのある受験生からの申告を受ける環境を整えており、その後受験時には、障がいの状況に応じた試験環境(時間延長、支援者の介添、点字対応、特別試験教室の用意など)を整えるなど、公平な受験機会を確保している。	
		52 学生募集、入学選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。また責任所在を明確にしているか。							
		53 入学選抜を行ううえで、障がいのある受験生に対し、障がいのない学生と公正に判定するための機会を提供しているか。							
3) 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 <学士課程> ・入学定員に対する入学数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応	54 学科における過去5年の入学定員に対する入学数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。	・学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・専攻会議議事録	定員管理については、平成27年度より収容定員の見直しを行い、適切な規模に応じて各学部・学科の定員を改正するとともに、毎年の入学数策定においては、過年度データ等を活用しながら、受入人数の適正化に努めている。	A	※1と同様			
		55 学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。							
		56 編入学定員を設けている場合、編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。							
		57 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。							
		58 定員超過または未充足について、原因調査と改善策の立案を行っているか。★							
		59 アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。						・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の3つのポリシーも見直すこととしている。
4) 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	60 学生募集および入学選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・なし	年間を通して入試部が現状を分析し、翌年度入試に向けた検討事項を各学部にて提案している。これに基づき、各学科入試委員会を中心とした各学部入試委員会で検討を行い、その検討結果を集約した上で、学長ならびに各学部長を主たる構成員とする全学入試委員会で年2回の検討・決定を行っており、定期的な検証を行っている。	A	※1と同様			
		61 学生の受け入れの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。	・専攻会議議事録 ・学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・全学入試委員会議事録	・全学入試委員会及び学部入試委員会で検討を重ねた内容について、専攻会議及び教授会において学生受入に係る審議を行うという、明確なプロセスをもって適切に機能させている。 ・入学方式によるその後の学習状況や、卒業後の進路について、データ化して専攻会議において検証している。					

(6) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期			
1) 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	○大学として求める教員像の設定 ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等 ○各学部等の教員組織の編制に関する方針(各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)の適切な明示	62	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「教員採用の基本方針」 ・「教員資格審査基準」	全学の「教員採用の基本方針」及び「教員資格審査基準」を定めるとともに、各学部で、学長との協議の上、内規等を定めて基準を明確にしている。	※1と同様				
		63	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・なし	全学委員会のほか、学部内に各種委員会を設置して、組織的な連携体制と、責任の所在を明確にしている。					
		64	学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則	・教員採用の方針は、教育課程の編成方針に合わせ、現代社会が直面する様々な問題に 対峙し理解する知性・思考・意欲・態度・技能を修得できる総合福祉カリキュラムを編成し 得る教員を配置し、教員組織を編成している。 ・福祉系資格の養成校としての届けを行っており、求められる教員数を常に確保するよう計 画的な採用を行っている。特に現場経験の有無、福祉系資格の有無、実習指導者講習 等、専門職養成に求められる要件については、事務課と連携して検証している。 ・学部の目的と特質上、専任教員が中心となって教育研究体制を構築しており、任期制教 員(助教)は実習担当を念頭に置き、また非常勤講師は科目に適合した採用を行っている。	A				
		65	学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準 ・講義要項 ・教員組織表 ・契約制雇用契約書						
		66	各教員の役割、教員間の連携のあり方、教育研究に係る責任所在について、規程や方針等で明確にされているか。							
2) 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	○大学全体及び学部等ごとの専任教員数 ○適切な教員組織編制のための措置 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ○学士課程における基盤教育の運営体制	67	学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・教員組織表	充足結果については、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、学部より学長に報告を行っている。				※1と同様	
		68	学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。		・生活支援学科専任教員の7名が教授(教員数13名)であり、教授数は半数に届いている。 ・学部教員全体の年代比率は、 ～30歳 5.41% 31～40歳 9.46% 41～50歳 37.84% 51～60歳 31.08% 61歳～ 16.22% となり、若干、年代に偏りがみられる。				B	今後、各教員の専門性とカリキュラム内の科目のバランスも検証し、新たな人事に備えて準備をしたい。
		69	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準						
		70	教員組織の編成方針に則って教員組織が編成されているか。		・生活支援学専攻では、教育課程の編成方針に合わせ、総合福祉教育に必要な専門性を有する教員及び福祉系資格の養成校に求められる教員数を配置し、教員組織を編成している。					
		71	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・なし	専任・非常勤を問わず、資格審査委員会及び教授会の審議の際には、担当予定科目を明示した上で担当予定科目に関連する教歴、研究業績を基に審査することを前提としている。	※1と同様				
3) 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	○教員の職位(教授、准教授、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備 ○規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施	72	教員の募集・採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・「職員の任免及び職務規則」 ・「教員資格審査委員会規程」 ・「教員人事補充事務手続き概略フロー」	「職員の任免及び職務規則」及び「教員資格審査委員会規程」に手続きは明確にされている。また、プロセスについても「教員人事補充事務手続き概略フロー」及び「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」に明示されている。毎年度末に、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、当該年度の結果と次年度以降の計画を確認することで、各学部の人事が、適切に行われるようにしている。	※1と同様				
		73	教員の募集・採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	・「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」						
4) ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上に繋がっているか。	○ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動の組織的な実施 ○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用	74	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・新任教員事前研修資料 ・学外FD関連研修会案内 ・海外・国内特別研究員規程、件数 ・教員活動評価資料	高等教育推進センター主催による新任教員に対する研修会の実施や、専任教員の学外研修会への参加支援、また海外・国内の特別研究制度により、教員の資質の向上を図るとともに、平成28年度より「教員活動評価」制度を導入し、教員の教育・研究活動を中心とした自己点検・評価を実施している。	A				
		75	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。		・新任教員に対する研修会の実施や、専任教員の学外研修会への参加支援、また海外・国内の特別研究制度により、教員の資質の向上を図るとともに、学内の「教員活動評価」制度を活用し、自己点検を行うとともに、学科教員の活性化に繋げるべく努めている。 ・専攻長のもと、教員活動評価を適切に実施している。 ・また、今年度行った自己点検・評価の結果については、次年度以降、外部評価を実施し、内容をさらに検証していく予定ある。					
		76	教員活動評価等、教員の教育・研究・社会貢献活動の検証結果を有効に活用し、教員組織の活性化に繋がっているか。	・新任教員事前研修資料 ・学外FD関連研修会案内 ・海外・国内特別研究員規程、件数 ・教員活動評価資料						
5) 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	77	教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋がっているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	・教員組織の適切な教育研究活動を導くため、「教員活動評価」制度を導入している。同評価は、教員活動評価票をもとに各教員による自己評価を学部長・学科長評価内容が妥当かどうかの確認を行い、各教員の評価結果は学長に報告される仕組みである。回数を重ねることで、PDCAサイクル構築に至っている。 ・教員組織の適正生については、福祉系資格の養成校に求められる教員数及び教員資格を遵守はもとより、原論・援助技術論・制度政策論のバランスとともに、地域福祉、医療福祉、介護福祉、精神保健福祉に係る専任教員を置くことで教育効果に偏りない教員組織の構築に努めており、適正性については、毎年度専攻会議で議論・検証している。	A				

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	78	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>哲学教育(東洋大学ホームページ)</li> <li>東洋大学125周年記念出版「哲学をしようー考えるヒント30ー</li> <li>ライフデザイン学部履修要覧</li> <li>シラバス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生対象の選択必修科目である「社会福祉学原論Ⅱ」において、哲学教育が意識されている。シラバスには、講義の目的として、「本講義では、福祉援助の臨床について、まずは、その実際を確認し、その上で、宗教や哲学などを参照しながら、原理的な根拠について説明できることを目標とする」と書かれ、到達目標には、『臨床』をめぐる思想や哲学について説明できる」と明記されている。</li> </ul>	A		
	国際化	79	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国現場研修会実施要項</li> <li>カナダ短期海外語学研修実施要項</li> <li>フィリピン短期海外語学研修実施要項</li> <li>ライフデザイン学部教授会議議事録</li> <li>授業時間割表</li> <li>専攻会議議事録</li> <li>提携先との協定書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年度より、1, 2年次に英語の授業を必修として週に2回実施している。フィリピン研修、カナダ研修においては、語学研修だけでなく、国際的な福祉課題をフィールドワーク形式で体験でき機会を設けている。同研修では、事前事後学習を含め、国際福祉への視座の獲得を目指した指導を行っている。</li> <li>新カリキュラムでは、英語開講科目も設定しており、引き続き検討を重ねている。</li> </ul>	A		
	キャリア教育	80	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライフデザイン学部講義要項</li> <li>『ソーシャルワーカーの基盤としてのアドボカシーセミナー』報告書</li> <li>福祉業界説明会</li> <li>専門実習報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉領域での専門職を目指す学生へは、各領域で「アドボカシーセミナー」を開催し、4年次生で専門実習を行った学生たちの報告会と合わせて、現場で活躍する卒業生を招き、シンポジウムや講演会・交流会を実施して、卒業生から第一線の実際について学ぶ機会を提供している。</li> <li>学生個々の進路指導を早い段階から把握し、国家試験対策、公務員試験対策への特別講義や個人指導等を行っている</li> <li>実習施設の関連業界企業等を招いて開催する福祉業界説明会を実施することで、早い段階から卒業後のキャリアを意識させている。</li> </ul>	S		
2) 学部・学科独自の評価項目①	(独自に設定してください)	81	教育・研究活動の中で国家試験対策を推進しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「福祉士受験対策ニュース」vol.1～</li> <li>シラバス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援学専攻では、社会福祉士の国家試験対策として、「生活支援学特別講義」をおこなっている。シラバスには、講義の目的として、「本科目は社会福祉士国家試験の受験を予定する者に対して、用語を中心とする受験で必要となる基礎的な知識を講義します。その上で毎回出題される確認問題により、この知識の習得を促します」と明記されている。</li> </ul>	A		
3) 学部・学科独自の評価項目②	(独自に設定してください)	82	(独自に設定してください)					
4) 学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	83	(独自に設定してください)					

平成30(2018)年度

学部

東洋大学 自己点検・評価(学科フォーム)

部門名 : ライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻

(1) 理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
1) 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部の目的を適切に設定しているか。	○学部、学科又は課程ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容 ○大学の理念・目的と学部・学科の目的の連関性	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「●●学部規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を、学部規程に適切に定めている。			
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。					
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。					
		4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。					
2) 大学の理念・目的及び学部の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	○学部、学科又は課程ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示	5 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・履修要覧 ・ホームページ	各学部・学科において、「教育研究上の目的」を、「履修要覧」及びホームページにて公表している。			
		6 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。					
	○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部の目的等の周知及び公表	7 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。					
3) 大学の理念・目的、各学部における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定	8 大学の理念・目的を踏まえ、各学部における目的等を実現していくため、将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	・●●学部●●学科 中長期計画 ・中長期計画フィードバックコメント ・その他( )	平成29年度より全学的な方針の下、各学科の中長期計画を策定し、平成35年度までの到達目標とその計画を明確に定めている。 また、学長施策である「教育活動改革支援予算」により、理念目的の実現に向けた教育プログラムの企画と実行を進めている。	A		
		9 各学科の中・長期計画その他の諸施策の計画は適切に実行されているか。実行責任体制及び検証プロセスを明確にし、適切に機能しているか。また、理念・目的等の実現に繋がっているか。	・子ども支援学専攻会議資料 ・ライフデザイン学部教授会資料 ・子ども支援学専攻中長期計画	子ども支援学専攻の中・長期計画は専攻会議で内容を検討・決定したものを実行している。中期計画の子育て支援実践に関しては、日程調整やパンフレット作製等について担当者から専攻会議に諮られ、専攻会議で決定し、実行している。しかしながら、長期計画については赤羽台への移転に伴う校舎の設計等、現在進行形のものも多く、事案が出るたびに専攻会議で適宜検討をしている。			
4) 大学・学部等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか	○教育組織としての適切な検証体制の構築	10 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・子ども支援学専攻会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・進路状況アンケート ・卒業生アンケート ・実習懇談会 ・新入生アンケート ・外部評価結果	子ども支援学専攻は保育士・幼稚園教諭、児童養護施設職員等の養成や子育て家族や地域への支援、子どもに対する理解と問題解決能力をもった人材の育成をその目的としている。その目的を達成するため、文部科学省や厚生労働省からの通達、学内の各種アンケート、学生の進路調査、オープンキャンパスなどの受験生の質疑等を参考にし、また学生の現状や社会のニーズなどを考慮しながら、専攻の現在地や今後の方向性を入試要項作成前や入試策定後に専攻会議で検討し、専攻のあるべき方向性を検証している。 今年度実施した外部評価でも理念・目的の適切性について客観的な評価を受けた。	A		
		11 理念・目的の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。	・子ども支援学専攻会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	子ども支援学専攻では、卒業生アンケートや学部HP作成時、次年度の教育課程表や履修要覧等の作成時に専攻の理念や目的と教育内容との適合性を専攻会議で検証している。今年度は再課程申請や保育士養成課程への対応もあり、専攻会議で何度も取り上げている。会議では専攻の理念・目的のみならず、カリキュラムや専攻の教育方針との整合性をも考え、それをさらにシラバス等に反映させている。			

※1.当該項目については、平成23～25年度の自己点検・評価及び平成26年度の認証評価の結果から、大学全体及び各学部・学科の現状には大きな問題がないこと、第3期認証評価の評価項目を踏まえ、点検評価項目の見直しを図ったが、この項目における影響はないと判断し、毎年の自己点検・評価は実施しないこととする。(平成29年9月14日、自己点検・評価活動推進委員会承認)。

(4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期		
1) 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表	12 教育目標を明示しているか。	・「●●学部規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を学部規程に適切に定めている。	※1と同様				
		13 ディプロマ・ポリシーを設定し、かつ公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしておき、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「●●学部規程」 ・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、ディプロマ・ポリシーを定め、ホームページにて公表している。					
		14 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・子ども支援学専攻会議議事録 ・卒業時アンケート ・進路調査票 ・各科目のシラバス・各年度の課程表・各年度の履修要覧	子ども支援学専攻ではオープンキャンパス時の受験相談や資格取得希望者、資格取得者数、卒業生の進路や卒業時アンケートの結果まで、「子どもや福祉にかかわる専門的知識を身につけ、専門職に就くことで一貫しているため、教育目標である「保育を中心に、社会福祉の領域にも及ぶ学習を展開」とディプロマポリシーが一致している。	S				
		15 ディプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が明示されているか。	・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・子ども支援学専攻会議議事録 ・卒業時アンケート ・進路調査票 ・各科目のシラバス・各年度の課程表・各年度の履修要覧	「子どもの福祉や教育に関わる専門的知識、問題を解決する科学的探究心や問題解決能力を身につけ、人権を尊重して多様な価値観や文化を理解しながら多様な人々と協働しようとするグローバルマインドを持つ子ども支援の専門家」というディプロマ・ポリシーは、保育士資格・幼稚園教諭免許・社会福祉士国家試験受験資格取得および、子ども支援学専攻の卒業生、ライフデザイン学士としてふさわしい学習成果として明示されている。	S				
2) 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	16 カリキュラム・ポリシーを設定し、かつ公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしておき、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「●●学部規程」 ・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、カリキュラム・ポリシーを定め、ホームページにて公表している。	※1と同様				
		17 カリキュラム・ポリシーには、教育課程の体系性や教育内容、科目区分、授業形態等を明示し、学科のカリキュラムを編成するうえで重要な具体的な方針が示されているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ ・授業時間割表	ディプロマ・ポリシーに沿った保育士や幼稚園教諭の養成、社会福祉士の受験に必要な専門知識や科目を順次取得できるよう教育課程を体系化し、授業形態（講義・ゼミ等）もそれに合わせたものを配置している。教育課程表には科目別や必修・選択の別、クラス分け、単位数等が記載されており、学外実習スケジュールやカリキュラムマップ等も『履修要覧』等で具体的に明示されている。これらはまた、カリキュラム・ポリシーにある「さまざまな子どもや保護者を支援する力を備えるための専門科目を配置する。保育士・幼稚園教諭の資格取得に必要な専門科目を必修・選択として設定し、学びの系統性に配慮しながら順次履修できるよう配置する。」と一致している。				A	
	18 カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ ・授業時間割表	保育を中心に、社会福祉の領域にも及ぶ学習を展開し「真の大人」を目指す教育目標、教養豊かな基盤教育、諸資格取得のための体系だった専門教育を行い、グローバルな文化的視野と人的支援を身につけるカリキュラム・ポリシーは、資格取得および子どもや保護者支援を含めた保育・福祉にかかわる体系化された専門的知識を身につけ、諸資格取得に必要な科目はすべてそろっている。多様な文化や育ちを理解し、倫理観に基づいて人々の権利を理解し、協働する力をうたったディプロマ・ポリシーと一致している。	A					
3) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	○各学部において適切に教育課程を編成するための措置  ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ（必修、選択等） ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定（＜学士課程＞初年次教育、高大接続への配慮、基盤教育と専門教育の適切な配置等）	19 教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・授業時間割表 ・履修要覧	教育課程は大学の基準枠に沿った基盤教育科目を開講しており、ゼミや外国語等順次制が必要な科目にはⅠ・Ⅱ・Ⅲなどの順番を記し、学年順にに配当している。各授業科目の単位数は講義科目2単位、演習や技能系の科目は1単位、保育実習(2単位)及び保育実習指導(1単位)は3単位、教育実習(事前事後を含む)5単位と定められている。また、専門科目に関しては文部科学省の課程申請や厚生労働省の保育士養成課程に沿って科目の選定や位置づけをおこない、これらの科目の時間と内容も指導に沿ったものとなっている。	A				
		20 各授業科目の単位数及び時間数は、大学設置基準及び学則に則り適切に設定されているか。	・該当科目シラバス ・子ども支援学専攻会議議事録 ・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部教授会						
		21 授業科目の位置づけ（必修、選択等）に極端な偏りがなく、教育目標等を達成するうえで必要な授業科目がバランスよく編成されているか。	・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部履修要覧 ・子ども支援学専攻会議議事録 ・子ども支援学専攻教育課程表 ・該当科目シラバス						
		22 専門教育への導入に関する配慮（初年次教育、導入教育の実施等）を行っているか。	・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部履修要覧 ・子ども支援学専攻会議議事録 ・子ども支援学専攻教育課程表 ・該当科目シラバス						
		23 基盤教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。卒業、履修の要件は適切にバランスよく設定されているか。	・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部履修要覧 ・子ども支援学専攻会議議事録 ・子ども支援学専攻教育課程表 ・該当科目シラバス						
		24 カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果につながる教育課程となっているか。	・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部履修要覧 ・子ども支援学専攻会議議事録 ・子ども支援学専攻教育課程表 ・該当科目シラバス						
3) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施	25 学科の人材養成の目的に即した、社会的及び職業的自立を図るために、キャリア教育等必要な教育を正課内に適切に配置しているか。また必要な正課外教育が適切に施されているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・子ども支援学専攻会議議事録 ・社会福祉士国家試験対策講座 ・朝霞キャンパスで行われているキャリア講座等 ・子ども支援学専攻教育課程表 ・該当科目シラバス ・保育職説明会	子ども支援学専攻では資格取得のためのカリキュラムや、実践的な専門科目をそろえているほか、保育士や幼稚園教諭、施設職員になった卒業生を講師に迎えて在校生の職業意識を向上させるための特別講義等も行っている。また、社会福祉士国家試験資格を取得し、受験を希望する学生に対して独自の勉強会を開き合格率を上げているほか、1年次の保育ボランティアや各種施設見学、保育職説明会を開催する等、資格取得に関する指導や現場体験等を通じて、学生の職業的支援を行っている。	S				
		26 教育目標に照らした諸資格の取得、その他必要な知識・技能を測る試験の受験に係る指導や支援環境が整っているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・子ども支援学専攻会議議事録 ・朝霞キャンパスで行われているキャリア講座等 ・教員主催の勉強会 ・学外実習委員会議事録 ・実習担当者会議議事録 ・進路指導票 ・子ども支援学専攻教育課程表 ・該当科目シラバス	子ども支援学専攻では保育士・幼稚園教諭として活躍できるように実習教育や子育て支援の実践教育に力を入れており、経験豊かな専門的教員が担当している。また、地域のボランティアとも連携しながら、多文化共生を理解できる学生の育成も行っている。指導に当たっては、科目担当教員のほか、担当外の教員や実習指導室の助教が協働しながら、学生の資格取得や就職を細やかにサポートしている。	S				
		27 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の育成に向けて、学科内の学生への指導体制は適切であるか。また、学内の関係組織等の連携体制は明確に教職員で共有され、機能しているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・子ども支援学専攻会議議事録 ・朝霞キャンパスで行われているキャリア講座等 ・教員主催の勉強会 ・学外実習委員会議事録 ・実習担当者会議議事録 ・進路指導票 ・子ども支援学専攻教育課程表 ・該当科目シラバス	子ども支援学専攻では保育士・幼稚園教諭として活躍できるように実習教育や子育て支援の実践教育に力を入れており、経験豊かな専門的教員が担当している。また、地域のボランティアとも連携しながら、多文化共生を理解できる学生の育成も行っている。指導に当たっては、科目担当教員のほか、担当外の教員や実習指導室の助教が協働しながら、学生の資格取得や就職を細やかにサポートしている。	S				

(4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
4) 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	○各学部において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置  ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置(1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等)  ・シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等)  ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法  <学士課程> ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数 ・適切な履修指導の実施	28 単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	・履修要覧	全学部・学科において、1年間の履修登録科目の上限を、50単位未満に設定し、学部規程に規定している(卒業要件外の科目を除く)。	※1と同様		
		29 シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバスの作成依頼 ・シラバスの点検資料、点検結果報告書 ・「授業評価アンケート」資料	シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部による全科目のシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。			
		30 授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。					
		31 学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、施設・設備の利用など)を行っているか。	・授業評価アンケート結果とそれに対する担当教員の所見 ・学生との意見交換 ・シラバス ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・子ども支援学専攻会議議事録 ・教育課程委員会議事録	子ども支援学専攻では専門科目のゼミや実習関連の授業等では学生の参加を積極的に促すようなグループワークやアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生主体的の参加型の授業を展開している。しかしながら、数百名の受講者がいる基盤教育科目をはじめとする大教室での授業は、受講生の多さと教室の不適正な広さからアクティブ・ラーニングやグループワークなどの双方向の授業は難しい。特に講209、講214、講314教室は学生との距離があまりすぎて、質疑応答もままならない。	B	ゼミや専門科目はいすや机の移動等はあるものの、受講生と教室の広さがそれほど不都合がないが、基盤教育等は受講者数に制限がなく、また受講生が100名以上の場合は使用できる教室が決まっているため改善は難しい。	
		32 履修指導の機会、オフィスアワーなど、学生が学習に係る相談を受けやすい環境が整っているか。また、その指導体制は適切であるか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・シラバス ・子ども支援学専攻会議議事録	子ども支援学専攻では各自がオフィスアワーを定め、シラバス等に掲載しているが、それ以外でも在室時には出校の札を出すなど、学生が相談しやすい環境を整えている。また、実習関係では助教による指導も行っており、可能な限り手厚い指導体制をとっている。	S		
33 学生の学習を活性化し、教育の質的転換を実現するために、学科が主体的かつ組織的に取り組んでいるか。	・シラバス ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ ・子ども支援学専攻会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・子育て支援配布チラシ ・学生引率届	子ども支援学専攻では1年次春休みに希望する施設に自ら申し込みをさせ、保育ボランティアを経験させている。これは自主的な学びと実践力を身につけさせるとともに、現場を知ることで専門職への意識を高め、2年次ゼミでの振り返りから2年次春休みの行われる保育実習IBへとつながるよう、工夫している。また、各専門科目では実際に担当教員がそれぞれ学生を引率して施設見学を行う、ゼミや講義などで卒業生や専門家の講演を聞く、子育て支援科目で地域の親子と交流しながら子育てについて学ぶなど、学生が自ら参加し、将来に役立つ専門知識を現場との交流を取り入れながら行っている。これはカリキュラム・ポリシーになる高度な専門家養成主体的な活動を促し、それらの活動を専攻会議で報告・共有している。その一方で、専攻として特別講師(外部講師)の招聘や子育て支援活動などを開催し、学内にいながらも専門家の話を聞いたり、専門家とともに保育や家庭支援を学べる機会を設け、専門的な知識のみならず、実践や学生の職業教育意識の向上、社会とのかかわりを持たせる等の工夫を専攻として行っている。また、これらの学習に対しては、毎年12月に行われる実習施設との懇談会や6月に実施した外部評価活動等により専攻内で共有し、改善している。	S				
34 カリキュラム・ポリシーに従い、各科目の学習到達目標に照らした教育方法が適切に用いられているか。							
5) 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与	35 シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。		シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部によるシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。	※1と同様		
		36 海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学生を除く)。	・東洋大学学則	学則において60単位まで認定できることを定めており、各学部教授会で審議の上で単位認定を行っている。			
		37 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置を取っているか。	・東洋大学学則 ・シラバス ・ライフデザイン学部履修要覧	成績評価は東洋大学の基準に則り、ルーブリックの活用など、シラバスに掲載した方法により客観的で公平な評価を進めている。また、本専攻は保育士養成校であるため、保育士資格希望者には厚生労働省の規定により、3分の1以上欠席した学生に対しては単位を出さない等、厳格な措置をとっている。	A		
		38 卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・履修要覧	卒業要件は、学部規程に規定し、履修要覧にて全学生に明示している。また、新入生には履修ガイダンスと併せて、履修指導を行っており、卒業要件については十分に説明している。	※1と同様		
		39 ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・東洋大学学則 ・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部履修要覧	子ども支援学専攻は子どもの福祉や教育に関わる専門的知識を得、それを職業に生かすことがディプロマ・ポリシーであるため、保育所や幼稚園への就職率、社会福祉士合格率、公立保育士の合格率も教育内容・方法を確保する一つ目安となっている。卒業に必要な単位数は大学院学則で、保育士資格や幼稚園教諭免許に必要な科目や単位数はそれぞれの法令で定められており、専門科目は資格取得や保育者養成に必要なもので占められて	C		

		40	学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども支援学専攻会議議事録</li> <li>・ライフデザイン学部教授議事録</li> <li>・教育課程委員会議事録</li> </ul>	<p>いるため、カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの整合性も取れている。</p> <p>また、全学生の取得単位数の確認や資格取得要件単位の確認を学期ごとに行うことで、資格取得や卒業要件に関する指導を徹底している。卒業認定に関しては学則で規定されている単位を取得している学生を専攻会議で確認したうえで、判定教授会に諮って卒業の可否を決定している。</p>	5		
--	--	----	---	--	--	---	--	--

(4) 教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
6) 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定 ○学習成果を把握及び評価するための方法の開発 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	41 学科として、各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測るための評価指標(評価方法)を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども支援学専攻会議議事録</li> <li>授業評価アンケート</li> <li>保育実習・教育実習評価表(施設)</li> <li>保育実習・教育実習報告書(学生)</li> <li>実習懇談会</li> <li>進路指導票</li> <li>卒業時アンケート</li> <li>外部評価記録</li> </ul>	<p>学習成果の把握及び指導の改善に関しては、専任2科目、非常勤講師1科目の授業評価アンケートを学期ごとに行い、教員ごとにアンケートの所見を記して授業改善に役立てている。</p> <p>子ども支援学専攻は保育士・幼稚園教諭の養成、社会福祉士国家試験受験資格取得を専攻の教育の中心に据えているため、実習施設からの評価表や実習巡回時のやり取り、実習施設との懇談会での評価、学生の実習報告書等、ルーブリックを活用したゼミ教育の成果なども検討課題としてその都度専攻会議で話し合い、教育及び就職活動に役立てている。また、専門科目に関しては振り返りの授業やルーブリック作成等を行い、随時授業に生かしている。</p> <p>また、卒業時アンケートは在校生への授業対応だけではなく、就職対策等にも役立てている。</p> <p>今年度から第三者による外部評価を導入し、カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーの点検、教育内容の評価まで念入りに行ってもらった。</p>	A		
		42 学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施し、かつ活用しているか。					
7) 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	43 カリキュラム(教育課程・教育方法)の適切性を検証するために、定期的に点検・評価を実施しているか。また、具体的に何に基づき(資料、情報などの根拠)点検・評価、改善を行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価アンケート</li> <li>保育実習・教育実習評価表(施設)</li> <li>子ども支援学専攻会議議事録</li> <li>ライフデザイン学部教授会議事録</li> <li>シラバス</li> <li>ライフデザイン学部履修要覧</li> <li>東洋大学ホームページ</li> <li>ライフデザイン学部履修要覧</li> </ul>	<p>子ども支援学専攻では文部科学省や厚生労働省の通達等を取り入れながら、専攻会で逐次教育課程や授業内容を見直している。新カリキュラムへの移行時はもちろんであるが、毎年、授業評価アンケートや保育実習・教育実習評価表(施設)、教育実習報告書(学生)、卒業時アンケートなどを検証する、実習先施設と懇談会を行う等、専攻の教育内容について全員で話し合って結論を出し、3つのポリシーの検証のみならず、次年度の履修要覧やシラバス作成にも役立てている。</p>	A		
		44 教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限・手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。					
		45 授業内容・方法の工夫、改善に向けて、学内(高等教育推進センター)、学外のFDに係る研修会や機関などの取り組みを活用し、組織的かつ積極的に取り組んでいるか。					

(5) 学生の受け入れ

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期	
1) 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	46 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・ホームページ	各学部、学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。		※1と同様		
		47 アドミッションポリシーには、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示しているか。	・子ども支援学専攻会議事録 ・オープンキャンパスでの専攻の説明資料(DVD) ・東洋大学入試情報サイト ・入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	子ども支援学専攻では毎年、入試形式と入学後のGPAや進路、他大学の状況等を踏まえながら専攻のアドミッションポリシーに合う学生を獲得できるよう入試方法を専攻会議で検討している。入学前の学習歴や学力水準、能力に関しては明文化されていないが専攻の求める学生像はアドミッション・ポリシーに明記されており、オープンキャンパスや学びライブ等でも明示している。	A			
		48 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。		全学部・全学科において、大学ホームページにて公表している。		※1と同様		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学選抜制度の適切な設定 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学選抜の実施 ○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公正な入学選抜の実施	49 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。		入試方式や募集人員を決定する際、卒業生の就職先と入試方法の関連、入試部等のアドバイス、他大学の入試状況等を考慮しながら、専攻のアドミッション・ポリシーにより近い学生の確保を目指して毎年入試部から提示された時期に、選考方法や募集人員、選考体制等を専攻会議で検討している。	A			
		50 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・卒業生の進路届け ・卒業アンケート ・ライフデザイン学部入試委員会資料 ・子ども支援学専攻会議事録 ・オープンキャンパス専攻説明資料(DVD) ・東洋大学入試情報サイト ・入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	また、受験生に対しては東洋大学入試情報サイトやオープンキャンパス等で、入試方法や募集人員、選考方法について明示し、特に、オープンキャンパスでは受験希望者個々人に丁寧な対応をしている。しかしながら、指定校の選定や自己推薦の定員枠については今後も検討をする予定である。専攻会議での協議の結果、今年度はアドミッション・ポリシーに合う学生を見極めることを目標に、自己推薦入試を個人面接からグループ面接に変更した。				
		51 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。						
		52 学生募集、入学選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。また責任所在を明確にしているか。	・入学試験実施本部体制	学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制を構築して入学試験を適切に実施している。				
		53 入学選抜を行ううえで、障がいのある受験生に対し、障がいのない学生と公正に判定するための機会を提供しているか。		学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制において、障がいのある受験生からの申告を受ける環境を整えており、その後受験時には、障がいの状況に応じた試験環境(時間延長、支援者の介添、点字対応、特別試験教室の用意など)を整えるなど、公平な受験機会を確保している。				
3) 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 <学士課程> ・入学定員に対する入学数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応	54 学科における過去5年の入学定員に対する入学数比率の平均が0.90~1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。		定員管理については、平成27年度より収容定員の見直しを行い、適切な規模に応じて各学部・学科の定員を改正するとともに、毎年の入学数比率の策定においては、過年度データ等を活用しながら、受入者数の適正化に努めている。		※1と同様		
		55 学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90~1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。						
		56 編入学定員を設けている場合、編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7~1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。						
		57 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。						
		58 定員超過または未充足について、原因調査と改善方針の立案を行っているか。★	・ライフデザイン学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・子ども支援学専攻会議事録		子ども支援学専攻は保育士資格の関係で定員を超過することができないため、入学定員数に対する入学数比率は1.00を目途としている		S	
		59 アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・なし		4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の3つのポリシーも見直すこととしている。			※1と同様
4) 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	60 学生募集および入学選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・なし	年間を通して入試部が現状を分析し、翌年度入試に向けた検討事項を各学部提案している。これに基づき、各学科入試委員を中心とした各学部入試委員会で検討を行い、その検討結果を集約した上で、学長ならびに各学部長を主たる構成員とする全学入試委員会で年2回の検討・決定を行っており、定期的な検証を行っている。				
		61 学生の受け入れの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。	・子ども支援学専攻会議事録 ・ライフデザイン学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・全学入試委員会議事録	子ども支援学専攻では学生の受け入れに関しては、入試結果をもとに入試委員会で分析し専攻会議で検討して決定して教授会と大学の承認を受けて決定しているが、合格者と入学者とのバランスもあるため、毎年次年度にその経験を生かしている。	S			

(6) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
1) 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	○大学として求める教員像の設定 ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等 ○各学部等の教員組織の編制に関する方針 (各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)の適切な明示	62 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「教員採用の基本方針」 ・「教員資格審査基準」	全学の「教員採用の基本方針」及び「教員資格審査基準」を定めるとともに、各学部で、学長との協議の上、内規等を定めて基準を明確にしている。	B	※1と同様	
		63 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・なし	全学委員会のほか、学部内に各種委員会を設置して、組織的な連携体制と、責任の所在を明確にしている。			
		64 学科の目的を表現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準 ・子ども支援学専攻会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・シラバス ・教員組織表 ・契約制雇用契約書	子ども支援学専攻では大学設置基準(文部科学省)、児童福祉法施行規則による「保育士養成における必修科目の6系列の専任教員配置」(厚生労働省)及び幼稚園教諭の教職課程認定審査基準を満たすために「教職の意義等に関する科目の専任教員配置」(文部科学省)に基づき教員組織が編制されている。子ども支援学専攻は保育士養成を目的としているため、教育目的や3つのポリシー、教育課程や教育内容が体系的で明確であり、全員がそれに沿って協働できる体制を整えている。非常勤講師や任期制教員については必要に応じて配置し、専攻の教育に不備・不足がないように努めている。 教員の募集・採用に関しては、大学や学部の規則に則って行われており、候補者は専攻会議で決定し、資格審査委員会を経て、教授会の承認を得ている。また、昇格人事に関しては専攻会議または専攻内の教授会議(教授昇格の場合)で内容確認をした上で、規定の手続きとおり、資格審査委員会を経て、教授会の承認を得ている。助教の採用に関しても同様に、専攻会議で候補者を決め、資格審査委員会を経て、教授会で承認されている。			
		65 学部、各学科の個性、特色を發揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。					
		66 各教員の役割、教員間の連携のあり方、教育研究に係る責任所在について、規程や方針等で明確にされているか。					
2) 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	○大学全体及び学部等ごとの専任教員数 ○適切な教員組織編制のための措置 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ○学士課程における基盤教育の運営体制	67 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・教員組織表	充足結果については、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、学部より学長に報告を行っている。	B	※1と同様	
		68 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。					
		69 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	・子ども支援学専攻の専任教員11名中6名が教授である ・学部教員全体の年代比率は、 ～30歳 5.41% 31～40歳 9.46% 41～50歳 37.84% 51～60歳 31.08% 61歳～ 16.22% となり、若干、年代に偏りがみられる。子ども支援学専攻では大学設置基準(文部科学省)、児童福祉法施行規則による「保育士養成における必修科目の6系列の専任教員配置」(厚生労働省)及び幼稚園教諭の教職課程認定審査基準を満たすために「教職の意義等に関する科目の専任教員配置」(文部科学省)に基づき教員組織が編制されているため、教育上は最適な教員編成となっている。 また、教員の採用や昇格に関しては、ライフデザイン学部の資格審査規定に則り教育研究業績により担当科目の可否を判断し、専攻会議で候補者を上げ、資格審査委員会を経て、教授会で承認されている。			
		70 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。					
		71 専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・なし	専任・非常勤を問わず、資格審査委員会及び教授会の審議の際には、担当予定科目を明示した上で担当予定科目に関連する教歴、研究業績を基に審査することを前提としている。			
3) 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	○教員の職位(教授、准教授、助教)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備 ○規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施	72 教員の募集・採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・「職員の任免及び職務規則」 ・「教員資格審査委員会規程」 ・「教員人事補充事務手続き概略フロー」 ・「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」	「職員の任免及び職務規則」及び「教員資格審査委員会規程」に手続きは明確にされている。また、プロセスについても「教員人事補充事務手続き概略フロー」及び「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」に明示されている。 毎年度末に、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、当該年度の結果と次年度以降の計画を確認することで、各学部の人事が、適切に行われるようになっている。		※1と同様	
		73 教員の募集・採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。					
4) ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上に繋げているか。	○ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動の組織的な実施 ○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用	74 研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・新任教員事前研修資料 ・学外FD関連研修会案内 ・海外・国内特別研究員規程、件数 ・教員活動評価資料	高等教育推進センター主催による新任教員に対する研修会の実施や、専任教員の学外研修会への参加支援、また海外・国内の特別研究制度により、教員の資質の向上を図るとともに、平成28年度より「教員活動評価」制度を導入し、教員の教育・研究活動を中心とした自己点検・評価を実施している。	A	※1と同様	
		75 教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。					
		76 教員活動評価等、教員の教育・研究・社会貢献活動の検証結果を有効に活用し、教員組織の活性化に繋げているか。	・教員活動評価 ・子ども支援学専攻会議事録 ・学外FD関連研修会 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・海外・国内特別研究員規程	教員活動評価や授業アンケートなどを各自利用し、授業改善や各自の研究(論文作成)の向上、FDに対する意識改革、東洋大学主催の社会貢献活動(講演会)等に生かしている。 また今年度より自己点検評価に外部評価を導入し、客観的・社会的にも専攻のあり方や教育に関して検証している。			
5) 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	77 教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則、ライフデザイン学部教員資格審査基準細則、ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準 ・子ども支援学専攻会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	子ども支援学専攻では人事や授業科目、各種委員会への意見等は随時専攻会議で検討し、採決されたものを学部の各種委員会や教授会に提出し、不都合があったものに関しては専攻会議(教授昇格に関しては教授だけの会議)の場で再検討して改善し、再度各種委員会や教授会に諮っている。また、専攻会議や実習担当者会議の議事録を担当者が作成し、教員全員が確認して次につなげている。専攻の人事および各種委員は専攻長が原案を作成し、専攻会議で決定している。	A		

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	78	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部履修要覧 ・シラバス	各科目のシラバスには哲学教育の基礎である知を愛し、自ら論理的に考察することを教育内容として盛り込んでいる。子ども支援学専攻では哲学教育を実習科目やボランティアなどを通して実践させることも行っている。また、ディプロマ・ポリシーにも「人権を尊重する倫理観を身につけること」と明記されている。	A		
	国際化	79	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・フィリピン短期海外語学研修実施要領 ・カナダ短期海外語学研修実施要項 ・ライフデザイン学部教授会議議事録 ・子ども支援学専攻会議議事録 ・提携先との協定書 ・シラバス ・ライフデザイン学部履修要覧	・ライフデザイン学部は希望学生を対象にフィリピンや韓国などへの研修を学部独自のプログラムとして継続的に実施しており、子ども支援学専攻の教員や学生もフィリピン研修に参加している。子ども支援学では2年生の春休み、3、4年生の夏休みに実習が入るため時間的に厳しいのが実情であるが、新入生を対象としたTGLキャンプの全員参加や英語スピーチコンテストへの個人参加など、教員の研究のみならず、学生の国際化意識も高まっている。平成30年2月には8名の子ども支援学専攻学生が、フィリピン(セブ)研修に参加した。授業では多文化保育・教育や国際児童福祉など国際的な視野を広げる科目の設置や、子育て支援実践では外国にルーツを持つ親子との関わりを持つなど、海外研修のみならず、国内でも可能な国際化にも対応している。	A		
	キャリア教育	80	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・履修要覧 ・シラバス ・授業時間割表 ・ライフデザイン学部教授会資料 ・子ども支援学専攻会議議事録 ・保育職説明会等のポスター等	本専攻は保育士・幼稚園教諭の養成や児童福祉施設職員の養成に力を入れており、授業内でも専門職についている卒業生の体験談を聞く、公務員論などの実践授業を取り入れる、ゼミや授業で現場に行き実践的な学習を行う、保育職や幼稚園教諭についての説明会を行う、社会福祉士の国家試験受験対策を行う等、学生のキャリア活動に対して積極的な取り組みを行っている。	S		
2) 学部・学科独自の評価項目①	地域貢献を兼ねた専門教育	81	子育てサブリ・子育て広場	・子ども支援学専攻会議議事録 ・大学HP ・子育てサブリ・ひろばチラシ	子育て実践支援はライフデザイン学部開設当初から行っているが、今年度は子育て広場 春2回、秋3回、子育てサブリ 春1回 秋1回 開催しており、12月1日に多言語での読み聞かせや海外の教育についての「おはなし」を行う子育てサブリを行う。対象者は0歳から6歳までの子どもとその父母とし、大学の施設を開放し、教員や学生とかわかることで地域貢献と学生の体験的な学習ができるシステムになっている。参加親子には海外にルーツを持ち、日本で生活をする親子も多く、また朝霞グラバの会など地元の多世代交流も行っており、朝霞キャンパスを中心に多文化保育・教育を体験学習を展開している。	S		
3) 学部・学科独自の評価項目②	(独自に設定してください)	82	(独自に設定してください)					
4) 学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	83	(独自に設定してください)					

平成30(2018)年度



東洋大学 自己点検・評価(学科フォーム)

部門名 : ライフデザイン学部健康スポーツ学科

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部の目的を適切に設定しているか。	○学部、学科又は課程ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容 ○大学の理念・目的と学部・学科の目的の連関性	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「ライフデザイン学部規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を、学部規程に適切に定めている。			
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。					
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。					
		4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。					
2)大学の理念・目的及び学部の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	○学部、学科又は課程ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示	5 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・履修要覧 ・ホームページ	各学部・学科において、「教育研究上の目的」を、「履修要覧」及びホームページにて公表している。			
		6 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。					
	○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部の目的等の周知及び公表	7 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。					
3)大学の理念・目的、各学部における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定	8 大学の理念・目的を踏まえ、各学部における目的等を実現していくため、将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	・ライフデザイン学部健康スポーツ学科 中長期計画 ・中長期計画フィードバックコメント ・その他( )	平成29年度より全学的な方針の下、各学科の中長期計画を策定し、平成35年度までの到達目標とその計画を明確に定めている。また、学長施策である「教育活動改革支援予算」により、理念目的の実現に向けた教育プログラムの企画と実行を進めている。	A	今後の赤羽移転や組織の変動にも備え、中長期の構想は適切に計画し、また検証を怠らないように心がける。	
		9 各学部の中・長期計画その他の諸施策の計画は適切に実行されているか。実行責任体制及び検証プロセスを明確にし、適切に機能しているか。また、理念・目的等の実現に繋がっているか。	・健康スポーツ学科会議資料 ・健康スポーツ学科将来構想委員会会議資料 ・ライフデザイン学部教授会資料 ・健康スポーツ学科中長期計画	2021年度の赤羽キャンパスへの移転や、その後の新体制に備え、学科内に将来構想委員会を設置し、中・長期的な視野に立った学科構想、研究課題及びカリキュラムの検討を実施している。将来構想委員会での検討結果は、学科会議に諮って検証し、学科会議議事メモに記録している。中・長期計画においては各計画に担当責任者を定め、責任者を中心に年度ごとに検証し、学科会議で報告をするようにしている。カリキュラムの検討時や専任教員の採用にあたっては、常に中長期計画を再確認した上、計画、実施に着手している。			
4)大学・学部等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか	○教育組織としての適切な検証体制の構築	10 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・人材養成に関する目的・学生に修得させるべき能力等の教育目標 ・専攻会議議事録 ・進路状況アンケート ・各年度の課程表・各年度の履修要覧 ・卒業生アンケート・新入生アンケート ・外部評価結果	赤羽移転移行の計画を立てる際に、現在の学部、学科の目的は、議論のベース、あるいは比較対象として必ず俎上に上げられており、結果として常に検証に晒されている。卒業生を対象に年度末に実施されるアンケート、カリキュラム改訂、あるいは中・長期における教育・研究の計画を立てる際に学科長を中心としたワーキンググループを設置し検討している。そこでの検討結果は学科会議にて諮り、必要な改訂等を行っている。今年度実施した外部評価でも理念・目的の適切性について客観的な評価を受けた。	A	現時点で問題は生じていないが、今後も学科の理念・目的については常に検証を継続し、次の改善に生かしていきたい。	
		11 理念・目的の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。	・「建学の精神」、「大学の理念」 ・人材養成に関する目的・学生に修得させるべき能力等の教育目標 ・東洋大学ホームページ ・健康スポーツ学科会議議事メモ ・各年度の課程表・各年度の履修要覧 ・卒業生アンケート・新入生アンケート	検証に向けて設置した学科内のワーキンググループで検討された理念・目的の適切性については、学科会議にて諮り、その内容を学科会議議事メモとして保存し、また履修要覧、HP等に反映させる形で公表している。しかしながら、現状では、その検証プロセスがどこかに明示されているということにはなっていない。			

※1.当該項目については、平成23～25年度の自己点検・評価及び平成26年度の認証評価の結果から、大学全体及び各学部・学科の現状には大きな問題がないこと、第3期認証評価の評価項目を踏まえ、点検評価項目の見直しを図ったが、この項目における影響はないと判断し、毎年の自己点検・評価は実施しないこととする。(平成29年9月14日、自己点検・評価活動推進委員会承認)。

(4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表	12 教育目標を明示しているか。	・「ライフデザイン学部規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を学部規程に適切に定めている。	※1と同様		
		13 ディプロマ・ポリシーを設定し、かつ公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にあり、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「ライフデザイン学部規程」 ・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、ディプロマ・ポリシーを定め、ホームページにて公表している。			
		14 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・健康スポーツ学科 ディプロマ・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	教育目標として「さまざまな身体活動を通して人々の生活を快適にする人にやさしい健康づくり」を掲げ、それに整合させる形で、ディプロマ・ポリシーとして、「①健康や身体活動、スポーツに関する正しい知識のうえに思考判断、②健康づくりの専門家として指導力、実践力、③全てのライフステージや生活状況にある人々を理解して健康づくりを支援する意欲」を設定している。そもそもディプロマ・ポリシー自体が教育目標を念頭に練られたものであり、整合性は高いと評価している。	A		
		15 ディプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が明示されているか。	・健康スポーツ学科 ディプロマ・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	ディプロマ・ポリシーにおいては、「①健康や身体活動、スポーツに関する正しい知識のうえに思考判断、②健康づくりの専門家として指導力、実践力、③全てのライフステージや生活状況にある人々を理解して健康づくりを支援する意欲」と、知識は①の項目で、技能は②の項目で、態度等は③の項目で、それぞれ具体的に明示して学生に修得を求めている。	A		
2) 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	16 カリキュラム・ポリシーを設定し、かつ公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にあり、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「ライフデザイン学部規程」 ・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、カリキュラム・ポリシーを定め、ホームページにて公表している。	※1と同様		
		17 カリキュラム・ポリシーには、教育課程の体系的な教育内容、科目区分、授業形態等を明示し、学科のカリキュラムを編成するうえで重要かつ具体的な方針が示されているか。	・健康スポーツ学科カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	教育目標とディプロマ・ポリシーを踏まえたカリキュラム・ポリシーを設定、それに則り学科内に学習領域や目的に応じた5つのコースを配置、それぞれが一貫して整合する体系を整えている。アクティブラーニング形式の実習が必修とされていることや、グローバルな視野から健康スポーツを学ぶためのグローバルスポーツコースの設置、また、講義と実習のバランスに配慮した科目内容等、いずれもカリキュラム・ポリシーをベースに編成された教育内容である。			
	18 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な関連性	・健康スポーツ学科カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	そもそも、カリキュラム・ポリシーの作成に当たっては、それに先立って設定した教育目標とディプロマ・ポリシーをベースに策定したため、当初よりそれらの整合は徹底されている。	A			
3) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	○各学部において適切に教育課程を編成するための措置 ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系的な配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ(必修、選択等) ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定(＜学士課程＞初年次教育、高大接続への配慮、基盤教育と専門教育の適切な配置等)	19 教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・授業時間割表 ・ライフデザイン学部履修要覧 ・学科教育課程表	「健康スポーツ学基礎演習Ⅰ」や「健康スポーツ学基礎演習Ⅱ」を含め、健康スポーツ学を学ぶ上で欠かせない基礎的知識は必修とし、1～2年次において修得、さらに、3年次から専門的な演習を配置するなど、健康スポーツ学について、学年を追って順次学習を深めるシステムで科目を配当した。また、1年次の秋学期より学生個々の関心から専門のコースを選択し、それぞれの関心の位置づけが明確にわかるような学習体系を整備した。各コースにおいても、1年次に修得が望まれる学問基礎となる科目を設定している。また、学科として学生に求める必修科目は35単位に抑え、学生の興味と関心に応じた履修を保証するように努めている。また順次性という意味では、養護教諭、保健体育科教諭、保健科教諭の資格を取得する過程においても、資格取得上の専門性の積み上げを即した配当としている。教育課程上主要な科目、資格取得に必要な科目は全て開講している。なお、学科では実習やアクティブラーニング形式の授業が多いが、いずれも授業の時間数、単位数について大学設置基準に則って計画されている。現在のカリキュラムから必修科目について、科目数や配当学年等を大きく変更した。そのときに入学した学生が2年を経過し、学科としても彼らの学習同行や履修のスタイルをフォローしているところである。	A	引き続き、2017年度カリキュラムでの変更事項については注視し、検証していきたい。また、科目ナンバリング等も活用しながら、カリキュラムマップもあらためて検証していきたい。	
		20 各授業科目の単位数及び時間数は、大学設置基準及び学則に則り適切に設定されているか。					
		21 授業科目の位置づけ(必修、選択等)に極端な偏りがなく、教育目標等を達成するうえで必要な授業科目がバランスよく編成されているか。					
		22 専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。					
		23 基盤教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。卒業、履修の要件は適切にバランスよく設定されているか。					
		24 カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。					
3) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目	○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な	25 学科の人材養成の目的に即した、社会的及び職業的自立を図るために、キャリア教育等必要な教育を正課内に適切に配置しているか。また必要な正課外教育が適切に施されているか。	・東洋大学ホームページ ・健康スポーツ学科カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・健康スポーツ学科会議事メモ ・該当科目シラバス	健康スポーツ学を学ぶ上で求められる基礎知識については、「健康スポーツ学基礎演習」や学科必修科目として初年次に配置し、それを踏まえて段階的に実践的な応用に向けた高度なプログラムを展開するフローとなっている。授業科目について、講義や演習・実習と系統だった履修が出来るよう、配当学年を適切に設定するとともに、シラバスの「関連科目・関連分野」の枠を用意し、科目によっては、履修に必要な条件等を記載している。また、履修要覧において、教養科目、専門科目の位置づけと役割を、学生に向けて説明している。専門を生かして一般企業に就職する場合の、制度的な教育的支援については、将来構想委員会等でも協議している。	A	学科のカリキュラムの中にビジネス関連の領域を効果的に配置することも検討を進める。	
		26 教育目標に照らした諸資格の取得、その他必要な知識・技能を測る試験の受験に係る指導や支援環境が整っているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・健康スポーツ学科会議事メモ ・朝霞キャンパスで行われているキャリア講座等 ・該当科目シラバス	「健康運動指導士」や「保健体育科教諭」、「養護教諭」等の資格取得の道筋となるようなカリキュラム体系や、社会で求められる専門性の高い技能を習得する実践的な科目を正課内に適切に配置している。さらに「健康スポーツボランティア活動」や、「健康スポーツインターンシップ」、「健康産業施設等現場実習」などの学科専門科目にて、学外における諸施設での実践的な体験等を含めたキャリア教育を視野に取めた学習の機会を設けている。また、授業等でも各種施設見学を行うなど、資格取得の有無に関わらず、専門的な現場体験等を通じて、学生のキャリア支援に取り組んでいる。生活支援学科で設置されている社会福祉士や精神保健福祉士の資格を取得する場合は、そのために必要な履修科目数が非常に多くなり、学科の必修科目を履修する上で、時間割や配当学年の制約が生じ、学科の資格と並行して履修することが極めて難しくなっている。			

<p>を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>	<p>実施</p>	<p>27</p>	<p>学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の育成に向けて、学科内の学生への指導体制は適切であるか。また、学内の関係組織等の連携体制は明確に教職員で共有され、機能しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフデザイン学部履修要覧</li> <li>・健康スポーツ学科会議事メモ</li> <li>・朝霞キャンパスで行われているキャリア講座等</li> <li>・進路指導票</li> <li>・該当科目シラバス</li> </ul>	<p>「保健体育科教諭」、「養護教諭」、「保健科教諭」等、教育職を目指す学生には、学習管理システムとして教職パスポートを作成し、資格取得に向け学生が必要な授業や実習などが確認でき、また、それぞれの実習体験について、適切な履修計画や細やかなフォローアップができるような体制を構築している。また、「健康運動指導士」や「GFI(グループエクササイズフィットネスインストラクター)」などの資格についても、試験のための対策講座を開講するなど、資格取得に向けた支援に努めている。生活支援学科が養成する「社会福祉士」や「精神保健福祉士」等の資格については、生活支援学科と共同で委員会を設け緊密な情報交換のもとで学科の枠を越えた指導およびサポート体制が整っている。また、学生に進路希望表等を提出させることで学生が進路や希望職種等を教職員で把握している。</p>	<p>A</p>		
-------------------------------	-----------	-----------	--	---	--	----------	--	--

(4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
4) 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	○各学部において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置 ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置(1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等) ・シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等) ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法 ＜学士課程＞ ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数 ・適切な履修指導の実施	28 単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	・履修要覧	全学部・学科において、1年間の履修登録科目の上限を、50単位未満に設定し、学部規程に規定している(卒業要件外の科目を除く)。		※1と同様	
		29 シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバスの作成依頼 ・シラバスの点検資料、点検結果報告書 ・「授業評価アンケート」資料	シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部による全科目のシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。			
		30 授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。					
		31 学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、施設・設備の利用など)を行っているか。	・授業評価アンケート結果 ・授業評価アンケート結果に対する所見 ・学生との意見交換議事録	1年次より4年次までの全学年にて学生の主体的な学習態度を養うため、演習授業を必修として配置している。講義科目の履修者数の上限の目安を200人とし、学年が上がるにつれ少人数制となるよう配慮を行っている。そのような配慮の上、2018年度は2年次の選択必修の実習授業の少人数化を遂げた。健康スポーツ学科の実習、実技についても実習室の収容人数および実習用機器についても学生が主体的に授業に参加する工夫をしている。	B	屋内スポーツ施設が限られているため、引き続き、教員の工夫と努力によって解決していきたい。	
		32 履修指導の機会、オフィスアワーなど、学生が学習に係る相談を受けやすい環境が整っているか。また、その指導体制は適切であるか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・シラバス	全教員がそれぞれの授業、研究プランの中で、学生にとって適切なタイミングでオフィスアワーを定め、相談を受ける機会を設けている。また、オフィスアワー以外でも在室の標を掲げる等、できる限り学生の学習、生活面での相談に対応できるように努めている。また、学部としては朝霞図書館の下の階にラーニングサポートセンターを設け、学習の指導を行っている。	A		
		33 学生の学習を活性化し、教育の質的転換を実現するために、学科が主体的かつ組織的に取り組んでいるか。	・シラバス ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ ・健康スポーツ学科会議資料	学科で定めたカリキュラム・ポリシーに従い、専門の特性上とりわけ講義と実習のバランスに配慮している。必要な知識や技術等を確実に修得することができるよう、各種の実験実習の授業のみならず、「フィールドワーク実習」や「健康スポーツボランティア活動」、「健康スポーツインターンシップ」、「国際健康スポーツ交流」、「健康産業施設現場実習」などの科目を通じて、健康やスポーツの現場において主体的かつ直接的な体験から学ぶシステムを構築を心がけている。英語で実施する授業の数を増やすべく、学科専門科目の中で英語で講義可能な領域や技術を検証している。	A	教育の質的転換については、教員個々の問題に留めず、今後も学科として教育システムの国際化や学長施策等を念頭に置きカリキュラムの策定や、授業の運営にあたりたい。	
34 カリキュラム・ポリシーに従い、各科目の学習到達目標に照らした教育方法が適切に用いられているか。							
5) 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与	35 シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。		シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部によるシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。		※1と同様	
		36 海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・東洋大学学則	学則において60単位まで認定できることを定めており、各学部教授会で審議の上で単位認定を行っている。			
		37 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置を取っているか。	・東洋大学学則 ・シラバス ・ライフデザイン学部履修要覧	いずれの科目も基本的に東洋大学の基準に則って評価を実施している。その上で、各科目の成績評価の個別基準、方法についてはシラバスで明示するようにしている。また、基礎演習Ⅰや基礎演習Ⅱのようなオムニバス授業では科目責任者が評価基準を定め、最終的な結果を共有するようにしている。しかしながら、オムニバス以外の科目の最終的な成績については、各教員の責任において大学の基準に則って評価しているという前提のもと、学科としてその厳格性をチェックするようなシステムが構築されているわけではない。	B	成績評価の客観性、厳格性を担保するシステムの構築については、成績評価の全体的な分布や割合、科目ごとの評価の違いなど、客観的なデータに基づく現状の認識を学科会議等において教員間で状況を把握し、議論を深めたい。その後の改善策として東洋大学の基準に基づいた学科独自のルーブリック等の活用も含め、客観性を保証する具体的な措置を検討していきたい。	
		38 卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・履修要覧	卒業要件は、学部規程に規定し、履修要覧にて全学生に明示している。また、新入生には履修ガイダンスと併せて、履修指導を行っており、卒業要件については十分に説明している。		※1と同様	
39 ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・学科会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	卒業要件は、ディプロマ・ポリシーに定めた能力、「(1)健康や身体活動、スポーツに関する正しい知識のうえに思考判断、(2)健康づくりの専					

		40	<p>学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東洋大学ライフデザイン学部教授会規定</li> <li>・健康スポーツ学科ディプロマポリシー</li> <li>・シラバス</li> <li>・ライフデザイン学部履修要覧</li> <li>・学科 卒業要件</li> </ul>	<p>門家として指導力、実践力、(3)全てのライフステージや生活状況にある人々を理解して健康づくりを支援する意欲」を満たした学生に学位授与を行っている。学科の卒業要件に到達した学生が、ディプロマ・ポリシーに合致するよう、健康スポーツ学科では必修科目を多めに配置し、徹底している。</p> <p>学位授与に関しては組織的な決定は学科ではなく教授会にて実施している。そのプロセスは教授会にて定め、議事録に記載している。</p>	A		
--	--	----	--	--	---	---	--	--

#### (4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
6)学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定 ○学習成果を把握及び評価するための方法の開発 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	41 学科として、各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測るための評価指標(評価方法)を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・授業評価アンケート ・進路指導票 ・卒業時アンケート ・健康スポーツ学科会議議事メモ	授業評価アンケート(専任教員は2科目、非常勤教員は1科目)を毎年実施して、学生の学習効果の測定を行うとともに、各教員からもアンケート結果に対する改善方策の提出させ、冊子化して全教員に配付している。ただし、学科の専門分野が広く多岐にわたるため、学科として特定の評価指標については設けていない。卒業時に、全卒業生に対して授業だけでなく学生生活全般についてのアンケート調査を実施し、学科ごとの集計を行い学科会議にて学科の教育効果・就職の評価を行っている。	B	健康スポーツ学科独自の学習成果を測るための評価指標について、どのような形で可能なのか、検討していきたい。	
		42 学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施し、かつ活用しているか。					
7)教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	43 カリキュラム(教育課程・教育方法)の適切性を検証するために、定期的に点検・評価を実施しているか。また、具体的に何に基づき(資料、情報などの根拠)点検・評価、改善を行っているか。	・健康スポーツ学科会議資料 ・授業評価アンケート ・ライフデザイン学部教授会資料 ・シラバス ・ライフデザイン学部履修要覧 ・ライフデザイン学部ホームページの3つのポリシー(カリキュラム・ポリシー) ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	学科長、教育課程委員を中心にワーキンググループを組織し、随時カリキュラムの改善の余地については検討を重ねている。また、年度の初めには非常勤講師とのカリキュラムに関する意見交換会を開催したり、ワーキンググループにて類似の学部、学科を有する他大学のカリキュラムを入手し、できるだけ客観的な視点からの比較研究や検証を試みるように努め、それらの結果を学科会議にて検証している。また、その結果は学科会議資料に記載し改善を促している。	A	評価、検証の合理的かつ客観的な方法については今後も検討をしていきたい。	
		44 教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限・手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。					
		45 授業内容・方法の工夫、改善に向けて、学内(高等教育推進センター)、学外のFDに係る研修会や機関などの取り組みを活用し、組織的かつ積極的に取り組んでいるか。					

(5) 学生の受け入れ

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	46 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・ホームページ	各学部、学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	B	※1と同様	
		47 アドミッション・ポリシーには、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示しているか。	・卒業生の進路届け ・卒業アンケート ・入試委員会資料 ・東洋大学入試情報サイト ・入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・健康スポーツ学科会議議事メモ	健康づくりに貢献できる人材を育成するため、アドミッション・ポリシーにて、「スポーツを通じた健康づくりを世の中に広める意欲」、「コミュニケーション能力」「健康スポーツを学ぶための十分な基礎的学力」等を明記している。ただし、コミュニケーション能力や基礎的学力等については、その基準が客観的に数値化されているわけではない。		学科の教育に応じた、学力水準や能力を示すのに適した基準については、どのような尺度や表現が可能か、今後検討を進めたい。	
		48 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・ホームページ	全学部・全学科において、大学ホームページにて公表している。		※1と同様	
2) 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学選抜制度の適切な設定 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学選抜の実施 ○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公正な入学選抜の実施	49 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・卒業生の進路届け ・卒業アンケート ・入試委員会資料 ・東洋大学入試情報サイト ・入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・健康スポーツ学科会議議事メモ	入学希望者には、ホームページやオープンキャンパス等の場でアドミッション・ポリシーを明確かつ平易な形で示し、その上で、募集人員や選考方法を明示している。また、各入試毎に試験科目や面接事項における質問内容を調整する等、公正を保ちつつ入試の趣旨に適した学生の獲得を目指している。過去に教育上の特性を踏まえ、理系科目の入試を取り入れたこともあるように、入試の方式も常に検証しているが、いずれもアドミッション・ポリシーに従ってのことである。	A	現状で特に問題は確認されていないが、カリキュラム等の変更があった際には、合わせて検討していきたい。	
		50 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。					
		51 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。					
		52 学生募集、入学選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。また責任所在を明確にしているか。	・入学試験実施本部体制	学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制を構築して入学試験を適切に実施している。			※1と同様
		53 入学選抜を行ううえで、障がいのある受験生に対し、障がいのない学生と公正に判定するための機会を提供しているか。		学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制において、障がいのある受験生からの申告を受けられる環境を整えており、その後受験時には、障がいの状況に応じた試験環境(時間延長、支援者の介添、点字対応、特別試験教室の用意など)を整えるなど、公平な受験機会を確保している。			
3) 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 <学士課程> ・入学定員に対する入学学生数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応	54 学科における過去5年の入学定員に対する入学学生数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。		定員管理については、平成27年度より収容定員の見直しを行い、適切な規模に応じて各学部・学科の定員を改正するとともに、毎年の入学学生数の策定においては、過年度データ等を活用しながら、受入人数の適正化に努めている。	S		
		55 学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。					
		56 編入学定員を設けている場合、編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。					
		57 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。					
		58 定員超過または未充足について、原因調査と改善方針の立案を行っているか。★					・ライフデザイン学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録
4) 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価	59 アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の3つのポリシーも見直すこととしている。	S	※1と同様	
		60 学生募集および入学選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・なし	年間を通して入試部が現状を分析し、翌年度入試に向けた検討事項を各学部へ提案している。これに基づき、各学科入試委員を中心とした各学部入試委員会で検討を行い、その検討結果を集約した上で、学長ならびに各学部長を主たる構成員とする全学入試委員会で年2回の検討・決定を行っており、定期的な検証を行っている。			

<p>また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>○点検・評価結果に基づく改善・向上</p>	<p>61</p>	<p>学生の受け入れの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフデザイン学部入試委員会議事録</li> <li>・ライフデザイン学部教授会議事録</li> <li>・全学入試委員会議事録</li> <li>・健康スポーツ学科会議事メモ</li> </ul>	<p>毎年、入試が終わった3～5月にかけ、学科長、入試委員を中心に受け入れの適切性について検討し、検討結果を学科会議にて検証し改善につなげている。これまでも、検討結果をもとに、理系入試を加えたり、指定校の入れ替えや、基準とする成績の見直しを行ってきた。その結果は健康スポーツ学科会議事メモに記載している。 一部、運動部優秀選手の受け入れについては、学科のアドミッション・ポリシーの確認を徹底できない状況が生じたこともあった。</p>	<p>A</p>	<p>入学後の個別の学習動向のフォローを充実させることで、検証にも生かしたい。</p>	
---	--------------------------	-----------	---	---	--	----------	---	--

(6)教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期			
1)大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	○大学として求める教員像の設定 ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等 ○各学部等の教員組織の編制に関する方針 (各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)の適切な明示	62 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「教員採用の基本方針」 ・「教員資格審査基準」	全学の「教員採用の基本方針」及び「教員資格審査基準」を定めるとともに、各学部で、学長との協議の上、内規等を定めて基準を明確にしている。	A	※1と同様				
		63 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・なし	全学委員会のほか、学部内に各種委員会を設置して、組織的な連携体制と、責任の所在を明確にしている。						
		64 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則	(非常勤講師を含む)教員の募集及び採用に関しては、大学や学部の規則に則って実施されており、候補者の推薦は学科会議によって決められている。また、スポーツの実技の科目担当者については、研究業績に加え競技成績や指導歴なども業績として評価できる仕組みを構築している。さらに、教育のグローバル化を企図して学科の専門科目においても、優秀な外国人の採用に努めている。ただし、現時点で学科独自の教員組織の具体的な編成方針については明文化されているわけではない。 教員は学科のアカデミックポリシーに沿った基盤、専門を問わず担当科目を担い、適切に配置されている。 昇格に関しては教授による会議で内容確認をした上で、規定の手続きのとおりに行われている。 各教員の学科内での委員会や各業務の役割などについては、業務のバランスなどを考慮しつつ適正な分担を心がけているが、特に明文化された規定や方針などは存在しない。	A	学科の教育方針に則り、カリキュラム内容に適しつつ、学科の特性をより効果的に実現する教員採用について、今後も適宜検証を続けていきたい。また、教員組織の編成方針や、教員の業務の割り当てなどの規定についても、今後明文化に向けて学科内で認識を共有し検討する必要がある。				
		65 学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・シラバス							
		66 各教員の役割、教員間の連携のあり方、教育研究に係る責任所在について、規程や方針等で明確にされているか。	・教員組織表 ・契約制雇用契約書							
2)教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	○大学全体及び学部等ごとの専任教員数 ○適切な教員組織編制のための措置 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ○学士課程における基盤教育の運営体制	67 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・教員組織表	充足結果については、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、学部より学長に報告を行っている。				A	※1と同様	
		68 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	健康スポーツ学科の専任教員20名中9名が教授である。 ・学部教員全体の年代比率は、 ～30歳 5.41% 31～40歳 9.46% 41～50歳 37.84% 51～60歳 31.08% 61歳～ 16.22% となり、年代に若干の偏りがみられる。 ・学科内に明文化された教員の編成方針は存在しないが、教員間で共有された認識から、学科カリキュラムの主領域を構成する、身体に関する自然科学領域、身体運動に関わる文化・社会科学領域、ヘルスプロモーションの指導技術に関わる領域において、それぞれのコアとなる科目や、5つの履修コースには専任教員を適切に配置している。 近年、若い研究者の採用がかなわず、理想とする年齢構成とは言い難かったが、2018年度には40歳以下の教員を2名採用して平均年齢を下げた。一方で、教授の数は定年退職に伴い、2017年度に比べ3名減少した。 2019年度より准教授から1名教授に昇格する予定となっているほか、今後の改組計画を踏まえて、教員組織の充実を図るよう取り組むこととしたい。						
		69 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。								
		70 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。								
71 専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・なし	専任・非常勤を問わず、資格審査委員会及び教授会の審議の際には、担当予定科目を明示した上で担当予定科目に関連する教歴、研究業績を基に審査することを前提としている。	A	※1と同様						
72 教員の募集・採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・「職員の任免及び職務規則」 ・「教員資格審査委員会規程」 ・「教員人事補充事務手続き概略フロー」 ・「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」	「職員の任免及び職務規則」及び「教員資格審査委員会規程」に手続きは明確にされている。また、プロセスについても「教員人事補充事務手続き概略フロー」及び「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」に明示されている。 毎年度末に、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、当該年度の結果と次年度以降の計画を確認することで、各学部の人事が、適切に行われるようにしている。								
3)教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	○教員の職位(教授、准教授、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備 ○規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施	73 教員の募集・採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。			A	※1と同様				
		74 研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・新任教員事前研修資料 ・学外FD関連研修会案内 ・海外・国内特別研究員規程、件数 ・教員活動評価資料	高等教育推進センター主催による新任教員に対する研修会の実施や、専任教員の学外研修会への参加支援、また海外・国内の特別研究制度により、教員の資質の向上を図るとともに、平成28年度より「教員活動評価」制度を導入し、教員の教育・研究活動を中心とした自己点検・評価を実施している。						
		75 教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。								
4)ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上に繋げているか。	○ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動の組織的な実施 ○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用	76 教員活動評価等、教員の教育・研究・社会貢献活動の検証結果を有効に活用し、教員組織の活性化に繋げているか。	・教員活動評価 ・新任教員事前研修資料 ・学外FD関連研修会案内 ・海外・国内特別研究員規程、件数	新任教員に対する研修会の実施や、専任教員の学外研修会への参加支援、また海外・国内の特別研究制度により、教員の資質の向上を図るとともに、学内の「教員活動評価」制度を活用し、自己点検を行い、結果を顧みつつ共有することで、学科教員の活性化に繋げるべく努めている。また、教員個々あるいは複数で、国や各自治体に関与している事業については、短期的にはワーキンググループを組織し、中長期では学科会議の中でも報告し、他の教員の意見を参考に検証し、必要に応じて新たに協力者とすることもある。なお、今年度行った自己点検・評価の結果については、次年度、外部評価を実施し、内容をさらに検証していく予定である。	A	学科の各教員が取り組んでいる事項については、できる限り情報を共有し、必要に応じて多くの教員の知見が反映され、より充実するように努めたい。また、担当業務の組織についても、必要に応じて他の教員が新たな専門的知識と共に関わることで活性化されるような形を積極的に図ってきたい。				

<p>5) 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上</p>	<p>77</p>	<p>教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員採用の基本方針</li> <li>・東洋大学教員資格審査基準</li> <li>・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則</li> <li>・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則</li> <li>・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準</li> </ul>	<p>教育組織の適切性、とりわけ人事採用や授業科目配当について、学科会議において検討し、その結果を学部教授会や各種委員会において検証するプロセスを確立している。また、その過程で問題が認められた場合は、学科内において再検討を行った上、各種委員会や教授会に再提出している。 なお、今年度は、赤羽移転後に向けて、長期的な教員組織の構想、検証方法に向けて、学科内の将来構想委員会で協議の準備に着手しつつある。</p>	<p>B</p>	<p>今後も継続的に機能させること予定である。</p>	
---	---	-----------	--	---	--	----------	-----------------------------	--

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	78	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>哲学教育(東洋大学ホームページ)</li> <li>東洋大学125周年記念出版「哲学をしよう-考えるヒント30-</li> <li>ライフデザイン学部履修要覧</li> <li>シラバス</li> </ul>	教育目的である「さまざまな身体活動を通して人々の生活を快適にする人にやさしい健康づくり」ができる人材を養成する上で、多面的しかも根本的な人生観・世界観に関わる多様な物の見方・考え方で教育研究を行うことが必要である。すなわち、健康スポーツ学は自然科学、社会・人文科学から真実を導き出し、その真実を基礎に問題の発見能力や解決能力を高める教育・研究を行っている。このことが、東洋大学が目指す「哲学教育」と通底するところであり、健康スポーツ学科の教育・研究のコアの部分である。	A		
	国際化	79	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時間割表</li> <li>健康スポーツ学科ホームページ</li> <li>ドイツ研修実施要項</li> <li>韓国現場研修会実施要項</li> <li>カナダ研修実施要項</li> <li>フィリピン研修実施要項</li> <li>ライフデザイン学部教授会議議事録</li> <li>健康スポーツ学科会議事メモ</li> <li>提携先との協定書</li> </ul>	1, 2年次に英語の授業を必修として週に2回実施している。その上で、学科専門科目の「国際健康スポーツ交流」や「スポーツとコミュニケーション」、「エスニックススポーツ実習」、あるいは、必修科目の「演習」等を英語で開講するなど、とりわけ英語教育と、それに伴う国際的な教養や発想の養成には注力している。ただし、英語で授業を実施することにより学生の理解度が下がる状況が確認されている。健康スポーツ領域における教育のグローバル化を図るため、授業にゲスト講師として外国人研究者を招いたり、海外からの研究者の招聘を計画している。2019年度は、ニュージーランドのAUTよりスポーツ傷害の世界的な第一人者であるPatria Hume教授を招聘し、学生に世界の最先端の科学的知見に触れる機会を提供する予定である。2010年度よりドイツ体育大学、総合型地域スポーツクラブ等の見学、授業参加を中心としたドイツ研修を実施しており、2014年度より授業科目と位置づけている。また、2106年度より、フィリピン研修、カナダ研修において健康スポーツ学の専門的な現場実習を取り入れ、学内での学びを海外に設けた実習先において経験しながら確認、修得する機会を設けている。	A	専門科目を英語で実施する上で、学生の理解度が下がらないようにする方策や、英語で講義することがより教育上、適している科目等について検討していく。	
	キャリア教育	80	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>シラバス</li> <li>Keep Active報告書</li> <li>スポーツ倶楽部ASAKA報告書</li> </ul>	健康スポーツ学科では、独自のキャリア教育として、3, 4年次に「健康スポーツインターンシップ」や「健康産業施設現場実習」の科目を配置し、将来のキャリアや資格取得のためのサポートを制度的に行っている。また、授業以外にも、地域の中高齢者を対象に「Keep Active」を実施したり、地域の小学生を対象としてスポーツを指導する「健康スポーツ倶楽部ASAKA」を年間を通じて実施し、実践的な経験を積ませる教育システムを取り入れている。	A		
2) 学部・学科独自の評価項目①	教育成果の公表	81	卒業研究発表会の公開、抄録集の刊行	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究発表会抄録集</li> <li>健康スポーツ学科会議事メモ</li> </ul>	健康スポーツ学科では、卒業研究発表会を下級生の運営・進行により実施している。この発表会により卒業研究発表者のプレゼンテーションの質向上はもとより、下級生への啓発の機会となっている。ただし、発表者以外の出席数が期待に満たない年があることが指摘されている。	A	下級生のより多くの参加を促す方法を検討したい。	
3) 学部・学科独自の評価項目②	地域貢献・実践活動	82	地域貢献、実践教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>Keep Active報告書</li> <li>健康スポーツ倶楽部ASAKA報告書</li> </ul>	地域の中高齢者を対象に本学科の学生が自主運営により健康教室「Keep Active」を実施している。健康スポーツ学科の学生が運営し、スポーツ指導および健康チェックを行い実践教育の場となっている。同様に地域の小学生を対象として、スポーツを指導する「健康スポーツ倶楽部ASAKA」を年間を通じて運営し、学童期の子どもに対する実践教育の機会と場所を提供している。	A		
4) 学部・学科独自の評価項目③	グローバルな社会貢献	83	健康スポーツ領域におけるアジアの教育支援	健康スポーツ学科会議事メモ	学科内にアジアにおける健康スポーツ教育の支援事業に関するプロジェクトチームを立ち上げた。アジア諸国の健康スポーツ教育の実態を把握し、その支援事業について研究しつつ、学科として適切かつ可能な支援の提供を実施していく予定である。その支援事業に、学生を主体的に参加させ、アジアへのスタディツアーという形で実践的なグローバル教育の機会を設定する。2019年度はその第一弾として、社会的な事情により整備が遅れている、カンボジアにおける保健体育教育、生涯スポーツの指導者養成において、カンボジア政府や国内外の関連NGOと協力し、現地での支援事業を実施する。	A	学部のグローバルな社会貢献から教育効果を最大限に引き出す方策を検討していきたい。	

平成30(2018)年度

学部

東洋大学 自己点検・評価(学科フォーム)

部門名 : ライフデザイン学部人間環境デザイン学科

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部の目的を適切に設定しているか。	○学部、学科又は課程ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容 ○大学の理念・目的と学部・学科の目的の連関性	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「●●学部規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を、学部規程に適切に定めている。			
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。					
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。					
		4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。					
2) 大学の理念・目的及び学部の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	○学部、学科又は課程ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示	5 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・履修要覧 ・ホームページ	各学部・学科において、「教育研究上の目的」を、「履修要覧」及びホームページにて公表している。			
		6 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。					
	○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部の目的等の周知及び公表	7 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。					
3) 大学の理念・目的、各学部における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定	8 大学の理念・目的を踏まえ、各学部における目的等を実現していくため、将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	・●●学部●●学科 中長期計画 ・中長期計画フィードバックコメント ・その他( )	平成29年度より全学的な方針の下、各学部の中長期計画を策定し、平成35年度までの到達目標とその計画を明確に定めている。また、学長施策である「教育活動改革支援予算」により、理念・目的の実現に向けた教育プログラムの企画と実行を進めている。			
		9 各学部の中・長期計画その他の諸施策の計画は適切に実行されているか。実行責任体制及び検証プロセスを明確にし、適切に機能しているか。また、理念・目的等の実現に繋がっているか。	・学科会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会資料 ・各種委員会議事録 ・人間環境デザイン学科中長期計画	・毎週の学科会議において、適宜中長期計画の報告が行われており、責任体制は適正である。 ・当学部は多様な中、長期計画を抱えているが、特に短期海外研究者の招聘の成果は順調に推移し、計画の履行も学科会議で検証している。 ・6月タイ国チェンマイ大学教授、11月米国ボストンのNPOヒューマンセンターデザイン事務局長を迎えたデザイン未来塾では、教員、学生との一体的なワークショップを展開し、今後の連携も検討されている。	A	今後学科の趣旨に沿った中長期目標を設定する	
4) 大学・学部等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	○教育組織としての適切な検証体制の構築	10 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・学科会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・各種委員会議事録 ・外部評価結果	・毎週学科会議を開催し、学科運営、各教員の授業、学生履修対応、各種委員会報告が行われ、検証されている。 ・特に、毎年度末には非常勤講師を含めた全学科教員によるデザイン会議を開催し、1年間の反省会を行い次年度の授業改善に役立っている。 ・また、これらの会議録、検証記録は教員全員に配布され、確認を得ている。 ・今年度実施した外部評価でも理念・目的の適切性について客観的な評価を受けた。	A	さらなるPDCAを推進する	
		11 理念・目的の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。	・学科会議議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・各種委員会議事録	・上記記述と重複するが、学科長を中心に学科運営が適切に行われており、学部内各委員、学科内各委員による責任体制は明確である。各人員配置も適切であり、報告が円滑に行われている。 ・昨年度からは特に人事将来構想検討WGが始動し、定期的な検討が行われ、現在も検討中であるが、学科会議での報告も適切に行われている。	A	引き続き検証プロセスを進める	

※1.当該項目については、平成23～25年度の自己点検・評価及び平成26年度の認証評価の結果から、大学全体及び各学部・学科の現状には大きな問題がないことと、第3期認証評価の評価項目を踏まえ、点検評価項目の見直しを図ったが、この項目における影響はないと判断し、毎年の自己点検・評価は実施しないこととする。(平成29年9月14日、自己点検・評価活動推進委員会承認)。

(4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表	12 教育目標を明示しているか。	・「●●学部規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を学部規程に適切に定めている。	※1と同様		
		13 ディプロマ・ポリシーを設定し、かつ公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「●●学部規程」 ・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、ディプロマ・ポリシーを定め、ホームページにて公表している。			
		14 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・学科ディプロマ・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	・教育目標では、ユニバーサルデザインの考え方を根拠にした教育研究を行い、建築、まちづくりからプロダクトデザイン、生活支援機器デザインに至る知識、技術の修得を目指しているが、ディプロマ・ポリシーでもそれらの知識、実践力、態度等を修得することを目指しており、整合していると判断する。	A	学科内において継続的に見直しを実施する	
		15 ディプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が明示されているか。	・学科ディプロマ・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	・ディプロマ・ポリシーについては、当学科はユニバーサルデザインを標榜しており、専門職として学生が学ぶべき倫理観を身につけ、その上で、社会で展開すべき知識、実践力、態度等を修得することを明示している。 ・とりわけ将来のデザイナーあるいは建築士として必要不可欠な課題発見能力、分析力、想像力、そしてコミュニケーション能力等の修得を求めている。	A	学科内において継続的に見直しを実施する	
2) 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	16 カリキュラム・ポリシーを設定し、かつ公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「●●学部規程」 ・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、カリキュラム・ポリシーを定め、ホームページにて公表している。	※1と同様		
		17 カリキュラム・ポリシーには、教育課程の体系的な教育内容、科目区分、授業形態等を明示し、学科のカリキュラムを編成するうえで重要な具体的な方針が示されているか。	・学科カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	・カリキュラム・ポリシーの特長は、「1. 基礎と専門の連携」とそれを実現するための「2. 演習と講義の密接な関係」である。このカリキュラム・ポリシーを基にして教育課程を設定しているため、期待される学習成果の修得につながるものとなっている。 ・3年次以降は3コースに関連する必要不可欠な科目編成を進め、かつ、進路の選択に合わせて多様な科目の履修が可能となるカリキュラムを構築している。 ・カリキュラム・ポリシーにおいては「修得すべき学習成果」について、ホームページ及び履修要覧に明示している。			
	○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性	18 カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・学科カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・東洋大学ホームページ	・人間環境デザインを幅広く捉える人材を養成することが本学科の教育目標であるが、(1)広い視野とデザインの第一線で活躍できる人材。 (2)デザインへの深い理解と造詣を持つ人材、(3)人の暮らしを尊重し、さらに豊かにしていく方策を考えられる人材養成という観点で十分に整合している。 ・コース配属にかかわらず二級建築士資格取得が可能になるようにカリキュラムを編成しており、この点も教育目標と整合している。	A	学科内において継続的に見直しを実施する	
3) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	○各学部において適切に教育課程を編成するための措置 ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあつたの順次性及び体系的な配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ(必修、選択等) ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定 (＜学士課程＞初年次教育、高大接続への配慮、基盤教育と専門教育の適切な配置等)	19 教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・授業時間割表 ・ライフデザイン学部履修要覧 ・学科教育課程表	・将来の進路選択に主要な授業科目はすべて開講しており、学科の設置目標に忠実に対応している。 ・授業科目の順次性に配慮し、配当学年を設定し、教育課程表に明記している。科目によっては、授業の継続性に留意している。 ・各種資格取得に関する科目も含め、授業科目の配置、単位数等は適正である。 ・必修科目と選択科目は3つのコースの専門分野の教育において必要な内容が適切なバランスで開講されている。	A	学科内において継続的に見直しを実施する	
		20 各授業科目の単位数及び時間数は、大学設置基準及び学則に則り適切に設定されているか。					
		21 授業科目の位置づけ(必修、選択等)に極端な偏りがなく、教育目標等を達成するうえで必要な授業科目がバランスよく編成されているか。					
		22 専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・東洋大学ホームページ ・学科カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・学科教育課程表 ・シラバス	・専門教育の導入については、1年時に「人間環境デザイン学概論」「ユニバーサルデザイン概論」及び「人間環境デザイン基礎演習Ⅰ」と「同Ⅱ」を必修として配置し、いずれも学科デザイン教育の導入としている。 ・基盤教育・専門教育の位置づけは明確であり、卒業・履修要件は適切である。 ・カリキュラムに係る学生相談には適宜各教員が実施している。 ・カリキュラム・ポリシーを実現する教育の大きな柱であるデザイン演習科目については、特に毎年専任教員と演習を担当する非常勤講師が参加してデザイン会議を開いて改善しており、講義科目も担当各教員が改善の努力を積み重ねている。その結果として、学生に「学士教育課程に相応しい教育内容」を提供している。			
23 基盤教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。卒業、履修の要件は適切にバランスよく設定されているか。	・東洋大学ホームページ ・学科カリキュラム・ポリシー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・学科教育課程表 ・シラバス	・専門教育の導入については、1年時に「人間環境デザイン学概論」「ユニバーサルデザイン概論」及び「人間環境デザイン基礎演習Ⅰ」と「同Ⅱ」を必修として配置し、いずれも学科デザイン教育の導入としている。 ・基盤教育・専門教育の位置づけは明確であり、卒業・履修要件は適切である。 ・カリキュラムに係る学生相談には適宜各教員が実施している。 ・カリキュラム・ポリシーを実現する教育の大きな柱であるデザイン演習科目については、特に毎年専任教員と演習を担当する非常勤講師が参加してデザイン会議を開いて改善しており、講義科目も担当各教員が改善の努力を積み重ねている。その結果として、学生に「学士教育課程に相応しい教育内容」を提供している。					
24 カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。							
3) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施	25 学科の人材養成の目的に即した、社会的及び職業的自立を図るために、キャリア教育等必要な教育を正課内に適切に配置しているか。また必要な正課外教育が適切に施されているか。	・学科会議議事録 ・授業時間割 ・シラバス ・学科会議内でキャリア支援報告	・本学科は、空間デザインコース、生活環境デザインコース、プロダクトデザインコースの3コース体制である。それぞれの専門科目において適宜外部のデザイナーや建築家等のプロフェッショナルを招くなど、キャリアについての知識を得られるように工夫している。 ・2年次までにすべての学生が卒業後直ちに二級建築士の受験資格が得られる科目を配置し、支援体制を維持している。これについては年度末のデザイン会議及び学科会議等で授業内容について検証を行っている。 ・二級建築士等諸資格の取得に係る指導については、ゼミ活動や3年、4年次で受験指導を外部機関を通じて実施しており、その成果報告は逐次受け指導に役立っている。	A	・年々拡大する多様なニーズに対応してさらなる検証・改善が必要である	
		26 教育目標に照らした諸資格の取得、その他必要な知識・技能を測る試験の受験に係る指導や支援環境が整っているか。					

<p>示的に補放しているか。</p>		<p>27          学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の育成に向けて、学科内の学生への指導体制は適切であるか。また、学内の関係組織等の連携体制は明確に教職員で共有され、機能しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議議事録</li> <li>・ライフデザイン学部履修要覧</li> <li>・学科会議内でのキャリア支援報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン演習科目においては、各学年において年2回程度外部の専門家、職業人を招いた特別講義を行っており、職業的自立に向けた指導体制の充実を図っている。</li> <li>・また、毎年12月に、公務員、企業人事担当者及びOG,OBを招いた業界説明会を実施し、約130名の学生が参加し、毎年参加学生、OB、OGによるアンケート調査を実施し次年度に継承している。</li> <li>・キャリア支援室の利用や各種キャリアガイダンス等のプログラムは教員も共有し、適宜学生への指導を行っている。</li> </ul>	<p>A</p>	<p>・さらなる検証・改善が必要である</p>	
--------------------	--	--	--	---	----------	-------------------------	--

(4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
4) 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	○各学部において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置 ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置(1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等) ・シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等) ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法 <学士課程> ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数 ・適切な履修指導の実施	28 単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学学生等も含む)。	・ライフデザイン学部履修要覧	全学部・学科において、1年間の履修登録科目の上限を、50単位未満に設定し、学部規程に規定している(卒業要件外の科目を除く)。		※1と同様	
		29 シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバスの作成依頼 ・シラバスの点検資料、点検結果報告書 ・「授業評価アンケート」資料	シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部による全科目のシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。			
		30 授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。					
		31 学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、施設・設備の利用など)を行っているか。	・学科会議議事録 ・授業時配布資料	・実験工房、制作工房を中心に施設設備の広範な利用が実現している。 ・ただし1年次のデザイン演習では演習環境がなく普通教室を使用しているのが実態であり、課題となっている。 ・1年次のデザイン演習では現在授業内容の工夫によって運用しているが、根本的な解決ではない。	B	・引き続き改善に向けた要請を法人当局に行う。	
		32 履修指導の機会、オフィスアワーなど、学生が学習に係る相談を受けやすい環境が整っているか。また、その指導体制は適切であるか。	・学科会議議事録 ・履修要覧 ・授業時配布資料 ・教員プロフィール	・各授業時において様々な対応が可能のように広報を徹底し、コース配属決定後の3、4年次ではゼミ活動が徹底しており特段の問題はない。 ・各授業、ゼミ教員と学生とのコミュニケーションは良好であり適切な授業相談、履修指導が行われている。	A		
		33 学生の学習を活性化し、教育の質的転換を実現するために、学科が主体的かつ組織的に取り組んでいるか。	・学科会議資料 ・授業時の広報資料 ・東洋大学ホームページ	・当学科の特徴を生かした外部機関、企業との連携活動は活発に進展している。今年度はTMGの協力によりライトアップが演習の一環として実現した。また、地方自治体の依頼による継続的な共同学習の機会(渋谷区、北区等)、UR機構、新座団地自治会への支援、民間企業との共同研究の機会をとらえた学生参加型授業や研究が進展している。これらにより教育の質的転換や向上を図る取り組みが活発である。 ・加えて、福祉機器等の学外デザインコンペ入賞や、学科主催(協力:ミネルバ)の椅子コンペはすでに3年目を迎えており、学習成果の検証に繋がっている。	A	・引き続き発展させ、教育の質的転換に繋げたい。また、デザイン演習の成果を測る学外コンペ等に応募させたい。	
34 カリキュラム・ポリシーに従い、各科目の学習到達目標に照らした教育方法が適切に用いられているか。							
5) 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与	35 シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。		シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部によるシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。		※1と同様	
		36 海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・東洋大学学則	学則において60単位まで認定できることを定めており、各学部教授会で審議の上で単位認定を行っている。			
		37 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置を取っているか。	・シラバスの点検資料、点検結果報告書 ・授業評価アンケート資料	・基本は各教員に任されている。各科目担当教員は、シラバスに成績評価の方法・基準を公表したり、適宜授業時に提出作品の講評会を実施して客観性を担保している。 ・特に、デザイン演習授業では事前に審査基準を明確にし、公開講評等を実施している。また、特定地域を対象とした授業では、当該地域での成果公表などを実施し、住民参加も得ている。	A	・引き続き客観性、厳格性に留意する。	
		38 卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・履修要覧	卒業要件は、学部規程に規定し、履修要覧にて全学生に明示している。また、新入生には履修ガイダンスと併せて、履修指導を行っており、卒業要件については十分に説明している。		※1と同様	
		39 ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・学科ディプロマ・ポリシー ・履修要覧 ・東洋大学ホームページ ・ライフデザイン学部教授会議事録 ・学科会議議事録	・学部全体での整合を調整しつつ、学科内での作成作業を進めた結果、ディプロマ・ポリシーと卒業要件は教育研究上の目的と整合している。 ・2017年度からのディプロマ・ポリシーにおいては「修得すべき学習成果」について、卒業を認定し、学位を授ける学生の要件として、ホームページ及び履修要覧に明示している。また、学科会議、ライフデザイン学部教授会での承認を経て、学位を授与している。	A		
40 学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。							

(4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
6) 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定 ○学習成果を把握及び評価するための方法の開発 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	41 学科として、各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測るための評価指標(評価方法)を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・学科会議議事録 ・ライフデザイン学部履修要覧 ・卒業生アンケート	・学科全体としての学習成果測定指標は設けてはいないが、卒業制作、卒業論文においては、中間、最終発表会を対象学生全員に実施し、最終の制作・研究は各コースの教員全員及び一部非常勤講師を含めた合否判定を行っている。加えて優秀作品の表彰、公表及び作品選集掲載を行っていることは、当学科の明快な評価指標と言える。 ・卒業時アンケートは、現在は全学部共通の卒業アンケートにより実施している。就職先の評価については適宜ゼミ単位で確認し、そのデータを学科会議で共有している。 ・学生の自己評価については、授業アンケート、各デザイン演習、各科目で独自に実施し、前述の就職先の評価と合わせて翌年度のシラバスに反映する努力をしている。	A	・評価と活用についてはまだ改善の必要がある。	
		42 学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施し、かつ活用しているか。					
7) 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	43 カリキュラム(教育課程・教育方法)の適切性を検証するために、定期的に点検・評価を実施しているか。また、具体的に何に基づき(資料、情報などの根拠)点検・評価、改善を行っているか。	・学科会議資料 ・授業時配布資料 ・授業評価アンケート ・授業時間割表	・学科の専門分野は多岐にわたるため授業内容も広範である。特に統一した評価基準は有していないが、毎週開催されている学科会議において常に評価についての点検は行われていると考えられる。 ・基本は各教員が授業時に行っている授業アンケート、学生との意見交換、授業時のリアクションペーパー等により、評価・改善を行っている。 ・学科独自の評価、検証の場としては既に繰り返し述べているが、本学科では毎年3月に、常勤、非常勤によるデザイン会議が開催されており各演習授業の内容を共有し、次年度の授業に反映させることになっている。なお昨年度より必修となったCAD演習はこの会議による結果である。 ・これらの検証を経て次年度の演習検討が非常勤を含めた各学年、科目ごとに行われ、適宜改善を推進している。	A	・引き続き改善を進めていく必要がある。	
		44 教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限・手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。					
		45 授業内容・方法の工夫、改善に向けて、学内(高等教育推進センター)、学外のFDに係る研修会や機関などの取り組みを活用し、組織的かつ積極的に取り組んでいるか。					

(5)学生の受け入れ

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期			
1) 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	46 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・ホームページ	各学部、学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	B	※1と同様				
		47 アドミッション・ポリシーには、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示しているか。	・東洋大学ホームページ ・学科アドミッション・ポリシー ・オープンキャンパスでの相談	人間環境デザインに関わる分野は多岐にわたり、学力のみに関わらず、デザイン思考の強い意志のある学生を求め、デザインの多様性を求めている。具体的には(1)自分の可能性を信じ、探求する意欲、(2)自分のデザイン能力を磨こうという意欲、(3)問題を真正面から受け止め、柔軟な解決方法を発想する意欲を持つ学生を求めている。		・現実的な対応としてどこまで水準や判定方法を示せるのか、今後検討を進めたい。				
		48 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・ホームページ	全学部・全学科において、大学ホームページにて公表している。		※1と同様				
2) 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学者選抜の実施 ○入学を希望する者への合理的配慮に基づく公正な入学者選抜の実施	49 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・学科会議議事録 ・入試ナビ ・東洋大学入試情報サイト ・入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	特に、自己推薦・実技入試については、ホームページの他、オープンキャンパス・学びライブ等に於いて、趣旨と目的を説明し、過去の問題及び優秀解答の開示を行っている。また、過去の問題については、ホームページ上でも公表している。指定校推薦枠・スポーツ推薦枠以外は、明示している。デザイン学科、特にものづくりの学科としての趣旨に鑑み一般入試:文系に重きを置きつつ理系の受験生にも門戸を開くと共に一部に、実技入試を実施している。	B	定員の厳格化によって、大学全体として、指定校推薦枠による入学者のほぼ全員が、募集定員枠内に含まれている事実を鑑み、法人として、この数値をどの様に公表していくかについて、検討を開始すべき時期にあるが放置されていると考えている。大学全体の問題として、適切な対応の検討が必要であると考えている。				
		50 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。								
		51 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・入学試験実施本部体制	学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制を構築して入学試験を適切に実施している。				※1と同様		
		52 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。また責任所在を明確にしているか。								
		53 入学者選抜を行ううえで、障がいのある受験生に対し、障がいのない学生と公正に判定するための機会を提供しているか。							学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制において、障がいのある受験生からの申告を受け環境を整えており、その後受験時には、障がいの状況に応じた試験環境(時間延長、支援者の介添、点字対応、特別試験教室の用意など)を整えるなど、公平な受験機会を確保している。	
3) 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 ＜学士課程＞ ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応	54 学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。		定員管理については、平成27年度より収容定員の見直しを行い、適切な規模に応じて各学部・学科の定員を改正するとともに、毎年の入学者数の策定においては、過年度データ等を活用しながら、受入者数の適正化に努めている。	B	2018年度入試時に於ける適切な策定数を再確認し、2019年度に備えている。				
		55 学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。								
		56 編入学定員を設けている場合、編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。								
		57 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。								
		58 定員超過または未充足について、原因調査と改善方針の立案を行っているか。★						・全学入試委員会資料	2018年度入試にて、定員超過を起こしたので、策定資料及び左記の資料を糧に、2019年度入試に向けて検討を行っているが、前提として、2019年度も、上位大学の定員厳格化による手続率の高まりを予想し、対応を検討している。	
		59 アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。						・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の3つのポリシーも見直すこととしている。	※1と同様
		60 学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。						・なし	年間を通して入試部が現状を分析し、翌年度入試に向けた検討事項を各学部部に提案している。これに基づき、各学科入試委員を中心とした各学部入試委員会で検討を行い、その検討結果を集約した上で、学長ならびに各学部部長を主たる構成員とする全学入試委員会で年2回の検討・決定を行っており、定期的な検証を行っている。	※1と同様
4) 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	61 学生の受け入れの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。	・学科会議議事録 ・入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	・学科長、入試委員の下、1~2月の毎週の学科会議の中で、各入試毎の受験生の動向、他大学の類似学科の入試動向を検討しており、共通認識を図っている。結論は全員の合議で決定され、特に問題は生じていない。 ・上記結果は必要に応じて入試委員会若しくは教授会に報告され審議されている	A					



(6)教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期	
1)大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	○大学として求める教員像の設定 ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等 ○各学部等の教員組織の編制に関する方針 (各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)の適切な明示	62 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「教員採用の基本方針」 ・「教員資格審査基準」	全学の「教員採用の基本方針」及び「教員資格審査基準」を定めるとともに、各学部で、学長との協議の上、内規等を定めて基準を明確にしている。	A	※1と同様		
		63 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・なし	全学委員会のほか、学部内に各種委員会を設置して、組織的な連携体制と、責任の所在を明確にしている。				
		64 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準 ・シラバス ・学科会議事録	・人間環境デザイン学科では3コースの教員配置が不可欠であり、カリキュラム改訂期、人事異動時を捉えて、総合的に学科会議、人事会議で議論している。 ・非常勤講師については幅広い視点で優秀な人材確保を目指している。 ・助教によるグローバル人材の確保が行われ、平成30年度は海外からの招聘研究者、デザイナーとの交流に不可欠な役割を担っている。外国人教員は一般公募の対象者でもある。 ・平成30年度2名、平成31年度2名の教員が退職するので、長期的視点での科目編成に関係したコース教員配置について協議を進めている。 ・教育研究の責任体制はコース対応を基本としている。				・今後も適宜見直しが必要である ・教員の役割、連携、学科の特色を出す教員採用について検討している。
		65 学部、各学科の個性、特色を發揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。						
		66 各教員の役割、教員間の連携のあり方、教育研究に係る責任所在について、規程や方針等で明確にされているか。						
2)教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	○大学全体及び学部等ごとの専任教員数 ○適切な教員組織編制のための措置 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ○学士課程における基盤教育の運営体制	67 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・教員組織表	充足結果については、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、学部より学長に報告を行っている。	A	※1と同様		
		68 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	・人間環境デザイン学科では、所属教員(任期制助教を含む)16名のうち教授は9名であり半数以上が教授である。 ・学部教員全体の年代比率は、 ～30歳 5.41% 31～40歳 9.46% 41～50歳 37.84% 51～60歳 31.08% 61歳～ 16.22% となり、若干、年代に偏りがみられる。 ・それぞれの分野に高度な知識を持った専門家の育成のために適した専門性と経験を有する教員を配置しているが、今後は科目配置やコース担当教員の変更も想定され、各コースの教育研究に不可欠な人材確保に努める。				・カリキュラム、専門分野、定年時期も併せて今後検討する。
		69 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。						
		70 教員組織の編成方針に則って教員組織が編成されているか。						
		71 専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・なし	専任・非常勤を問わず、資格審査委員会及び教授会の審議の際には、担当予定科目を明示した上で担当予定科目に関連する教歴、研究業績を基に審査することを前提としている。				※1と同様
3)教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	○教員の職位(教授、准教授、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備 ○規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施	72 教員の募集・採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・「職員の任免及び職務規則」 ・「教員資格審査委員会規程」 ・「教員人事補充事務手続き概略フロー」 ・「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」	「職員の任免及び職務規則」及び「教員資格審査委員会規程」に手続きは明確にされている。また、プロセスについても「教員人事補充事務手続き概略フロー」及び「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」に明示されている。毎年度末に、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、当該年度の結果と次年度以降の計画を確認することで、各学部の人事が、適切に行われるようにしている。	A	※1と同様		
		73 教員の募集・採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。						
4)ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上に繋げているか。	○ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動の組織的な実施 ○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用	74 研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・新任教員事前研修資料 ・学外FD関連研修会案内 ・海外・国内特別研究員規程、件数 ・教員活動評価資料	高等教育推進センター主催による新任教員に対する研修会の実施や、専任教員の学外研修会への参加支援、また海外・国内の特別研究制度により、教員の資質の向上を図るとともに、平成28年度より「教員活動評価」制度を導入し、教員の教育・研究活動を中心とした自己点検・評価を実施している。	A	※1と同様		
		75 教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。						
		76 教員活動評価等、教員の教育・研究・社会貢献活動の検証結果を有効に活用し、教員組織の活性化に繋げているか。	・学科会議事録 ・各教員の社会貢献活動配布資料	・当学科のすべての教員は、国、自治体、企業、市民活動等に深く関与しており、学科会議の中でもほぼ毎週のように新たな情報もたらされる。報告や意見交換の中では他の教員に関心があるテーマについては参画が呼びかけられ、組織の活性化に繋げている。複数の教員が共同で行う社会貢献活動も少なくない。また、平成29年度の自己点検・評価の結果については、平成30年度に外部評価を実施し、有益な指摘を頂いた。今後もさらに検証していく予定である。				・引き続き情報交換に努め、活性化に繋げる。
5)教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	77 教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	学科会議において3つのポリシーに基づく教員組織に関する議論を行いながら、教員組織のあるべき姿に向けて議論を行っている。 ・特に平成29年度より学科内に将来構想委員会を組織し、人事構想検討WGでの議論を経た上で、長期的な視点で教員組織体制の検討を進めている。	B	・今後も継続する。		

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	78	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>哲学教育(東洋大学ホームページ)</li> <li>東洋大学125周年記念出版「哲学をしよう考えるヒント30」</li> <li>ライフデザイン学部履修要覧</li> <li>シラバス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次のデザイン演習のオリエンテーションから、デザイナー若しくはデザインに関わる職種等において、本学科の学ぶべきスタンスを説明している。</li> <li>人間を主体とし、良好な環境形成やデザイン創作の可能性と限界、それらを考察する能力、方法等について教授している。同時に人々の考え方の多様性、解の多様性、人権を重んじる倫理的思考の重要性についても教授している。</li> </ul>	A		
	国際化	79	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライフデザイン学部教授会議議事録</li> <li>学科会議議事録</li> <li>提携先との協定書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の中でアジアや欧米諸国の建築、住居、環境デザインについて随時教授している。</li> <li>各教員の海外研究に置いては授業に有益な資料や情報を入手し、教育、研究活動に反映している。毎年東アジアを中心とする海外研修を実施するゼミもある。</li> <li>教員の海外研究発表も適宜行われている。</li> <li>平成30年度は、特に学科独自施策「未来塾」を開催し、チェンマイ大学及びボストンのNPOヒューマンセントードデザインの責任者を招き、国際的なユニバーサルデザインの講演とワークショップを実施した。</li> <li>個別教員に置いては、学部協定校である北京理工大学、北方工業大学との研究交流、スウェーデンストックホルム工科大学、ミラノ工科大学はじめ、フランス、シンガポール等の高等教育研究機関との共同研究が活発に行われている。</li> </ul>	S		
	キャリア教育	80	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>シラバス</li> <li>学科会議議事録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年秋学期からのプレゼミ活動、4年生のゼミ活動を通し、就職指導を随時行ってきた。</li> <li>授業や研究室活動においては、行政、企業、NPOの方々を招き、特別講義や共同研究、演習授業が行われている。</li> <li>平成30年度は12月に学科独自の業界研究会を開催する予定である。</li> </ul>	A	さらに充実していく	
2) 学部・学科独自の評価項目①	教育成果の公表	81	卒業研究(論文、制作)、授業成果の公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科会議議事録</li> <li>イベント開催ポスター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間環境デザイン学科では開設以来毎年、卒業研究、卒業制作の他、3年生のデザイン演習授業、中期目標・計画プロジェクトの成果を学外で公開し(作品展等)、授業成果の到達点を検証している。平成30年度も引き続き、平成31年1月および2月に予定している。</li> </ul>	S		
3) 学部・学科独自の評価項目②	国際化	82	デザイン未来塾等を通じた国際交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>デザイン未来塾実施報告書</li> <li>人間環境デザイン学科ホームページ(デザインレター)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期海外招聘教授制度やデザイン未来塾を利用して、平成30年度も海外(タイ、米国、イタリア等)から複数のデザイナーやユニバーサルデザインリーダーを招聘し、教員、学生との交流やデザインワークショップを行った。</li> <li>ミラノ工科大学との連携は引き続き協議を進めている。</li> </ul>	S		
4) 学部・学科独自の評価項目③	地域との連携	83	教育・研究活動の中で地域との連携を推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間環境デザイン学科ホームページ(デザインレター)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝霞市との包括協定をもとに、デザインとまちづくりの分野で様々な活動を展開している。</li> <li>東京2020の射撃競技会場となる埼玉県南西部地域振興センターと連携し、埼玉県が全国に誇る野菜「ねぎ」を模したライフルでビームライフルが体験できる「ねぎライフル」がマスコミ等で広報され、地域との連携を目指す当学科の取り組みとして大きな成果を上げている。</li> <li>平成30年度は新たに奥会津町との連携も視野に入れながら、学生との交流が続いている。</li> <li>北区、渋谷区等では教員が参加する当該区のバリアフリー基本構想作業に関連した授業運営が活発に行われた。</li> <li>北区赤羽団地の事業者であるUR機構とは学部移転を見据えた共同プロジェクトの協議を継続している。</li> </ul>	A	引き続き発展させていきたい。	